

資料2

配布用

第6回 小田川付替事業 環境影響評価 技術検討委員会 資料

環境省レッドリスト改訂による 追加種の予測評価について

平成24年12月11日

国土交通省
中国地方整備局 岡山河川事務所

目次

○ 環境省レッドリスト改訂への対応方針（案）	2
○ 環境省レッドリスト改訂により追加した重要な種の予測・評価の結果	9
1. 動物	10
2. 植物	16
【参考資料】	19
重要な種の一覧表	20
事業者の調査ルート・地点図	37
工事計画概要図	42
予測地域	48

○環境省レッドリスト改訂への対応方針(案)

1. 環境省レッドリストの改訂状況

○平成24年8月28日 環境省より第4次レッドリストが公表された。(10分類群のうち9分類群)

【環境省レッドリスト掲載分類群】 ※青字:改訂された分類群

動物:(1)哺乳類、(2)鳥類、(3)爬虫類、(4)両生類、(5)汽水・淡水魚類、(6)昆虫類、
(7)貝類、(8)その他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類)

植物:(9)植物Ⅰ(維管束植物)、(10)植物Ⅱ(維管束植物以外:蘚苔類、藻類、地衣類、菌類)

○「文献調査」又は「事業者の調査」で確認されている全ての種のうち、
環境省レッドリストの改訂により選定の内容が変更となった種数は以下のとおりである。

項目	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	昆虫類	底生動物	クモ類	貝類	植物	蘚苔類
①旧レッドリストで一般種 ⇒新レッドリストで重要な種※1 ⇒重要種として追加される種	0	6	0	0	43	8※2	0	0	1	0
②旧レッドリストで重要な種 ⇒新レッドリストで一般種 ⇒重要種から除外される種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
③新レッドリストでカテゴリーが変更された種	0	7	1	2	16	11	0	1	4	1

※1:岡山県RDBで選定されておらず、重要な種として追加された種

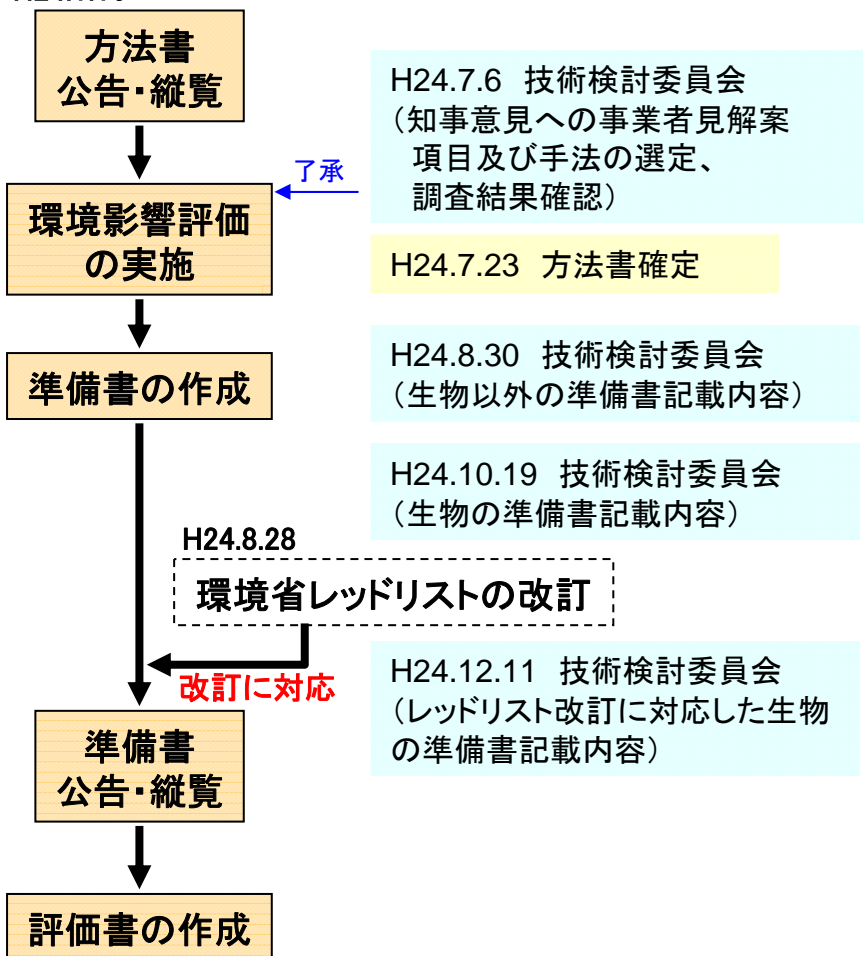
※2:底生動物のうち6種は、昆虫類と重複している。

※3:付着藻類は重要な種に該当する種は確認されていない。

2. 環境省レッドリスト改訂への対応方針（案）

○平成24年8月に改訂されたレッドリストへの対応については、事業者の努力として、準備書には反映する。
 （文献調査又は事業者の調査で、レッドリストの改訂により追加となった重要な種が確認されているため）

H24.1.16

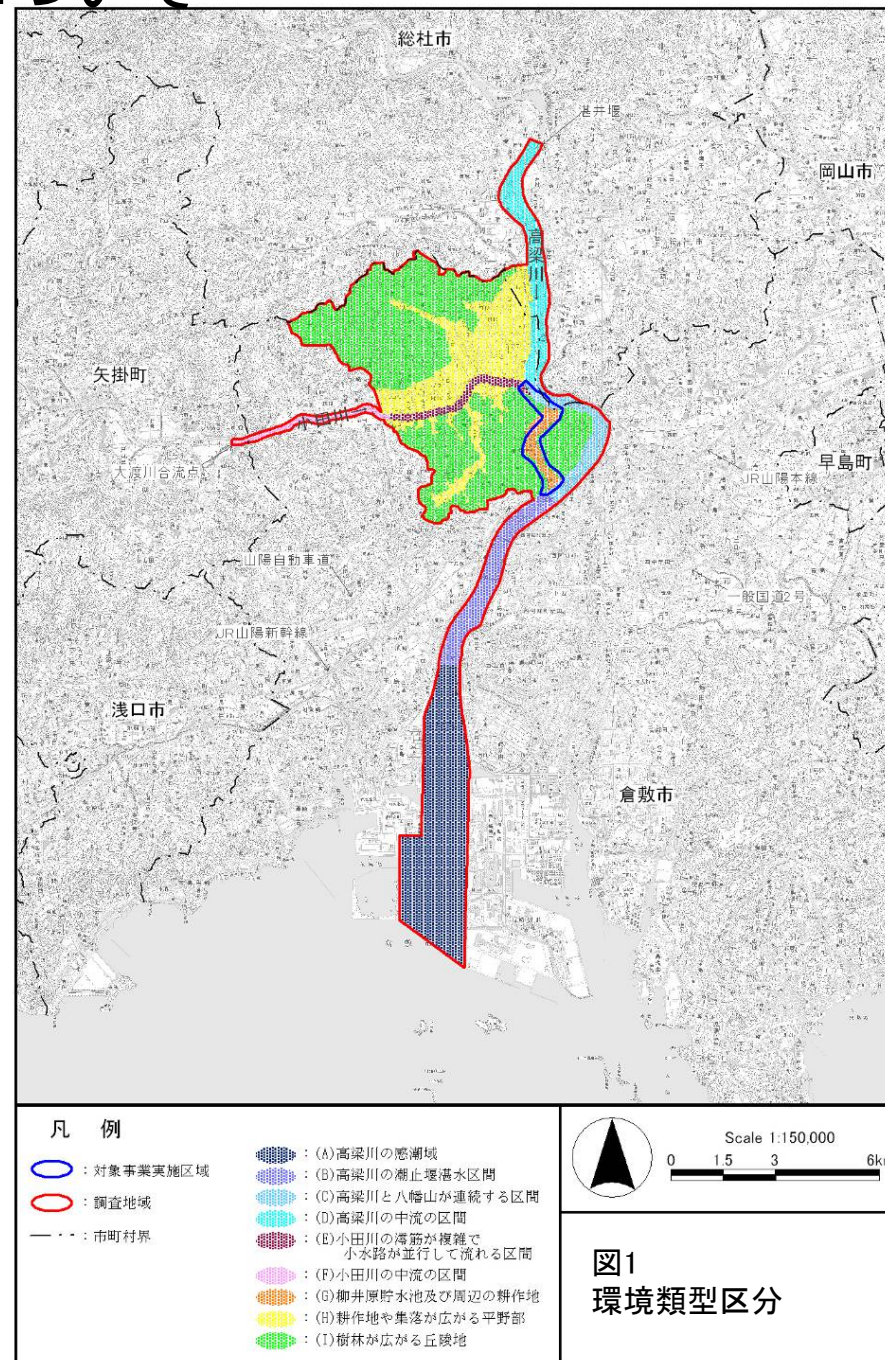


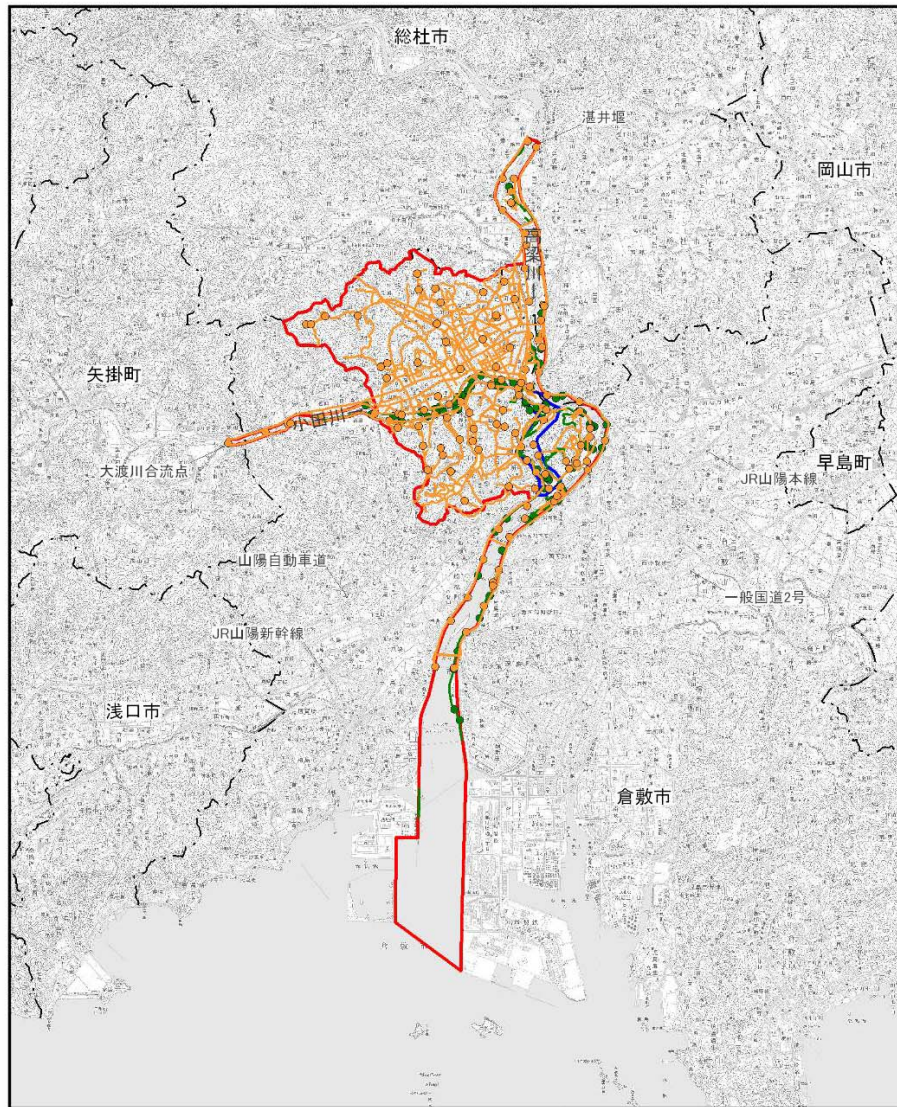
○予測評価を行うデータの状況について

- ・事業者の調査は、平成22年9月～23年8月に四季調査が終了した。
- ・その後、伐採地の補足調査、平成24年8月までは二期営巣期のデータが必要な猛禽類、魚類の遡上状況及び補足調査が必要な種について調査を実施した。
- ・第3回技術検討委員会(平成24年7月6日)において、上記データで予測評価を行うことについて了承されている。

3. 予測評価に使用する調査データについて

- ・平成22年9月～平成23年8月に実施した現地調査では、調査地域を環境別に大きく水域(7ブロック)、陸域(2ブロック)に区分し、それぞれのブロックにおいて、代表的な環境及び詳細な環境(土地利用、微地形等を考慮)を全て網羅するように調査地点・ルートを設定して十分な調査を実施した(調査ルートは図2参照)。
- ・したがって、現状において調査地域内において、十分に調査が実施できていることから、現在の調査データで予測評価が可能であると判断する。
- ・よって、追加された種の予測・評価はこれらのデータを用いて行う。





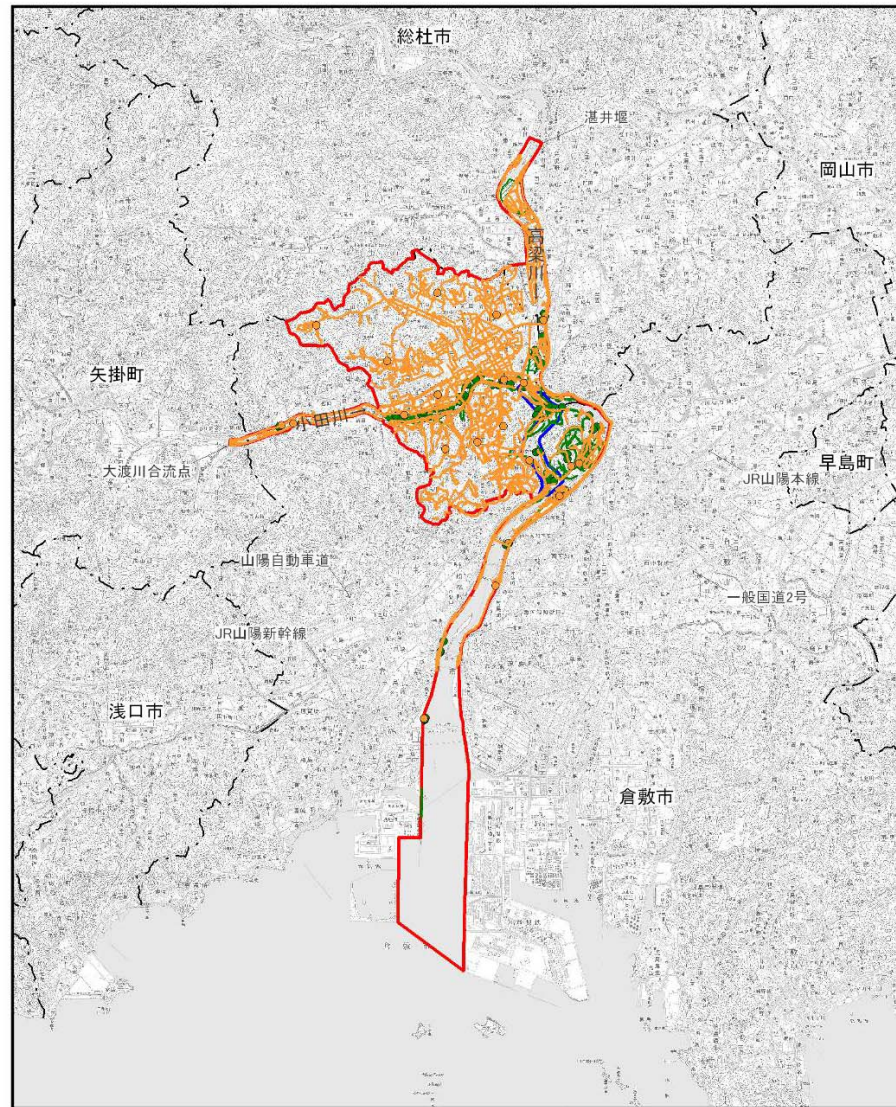
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- · — · — : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 調査地点
- : 調査経路

Scale 1:150,000

0 1.5 3 6km

図2(1)
鳥類調査地域、調査地点
及び調査経路



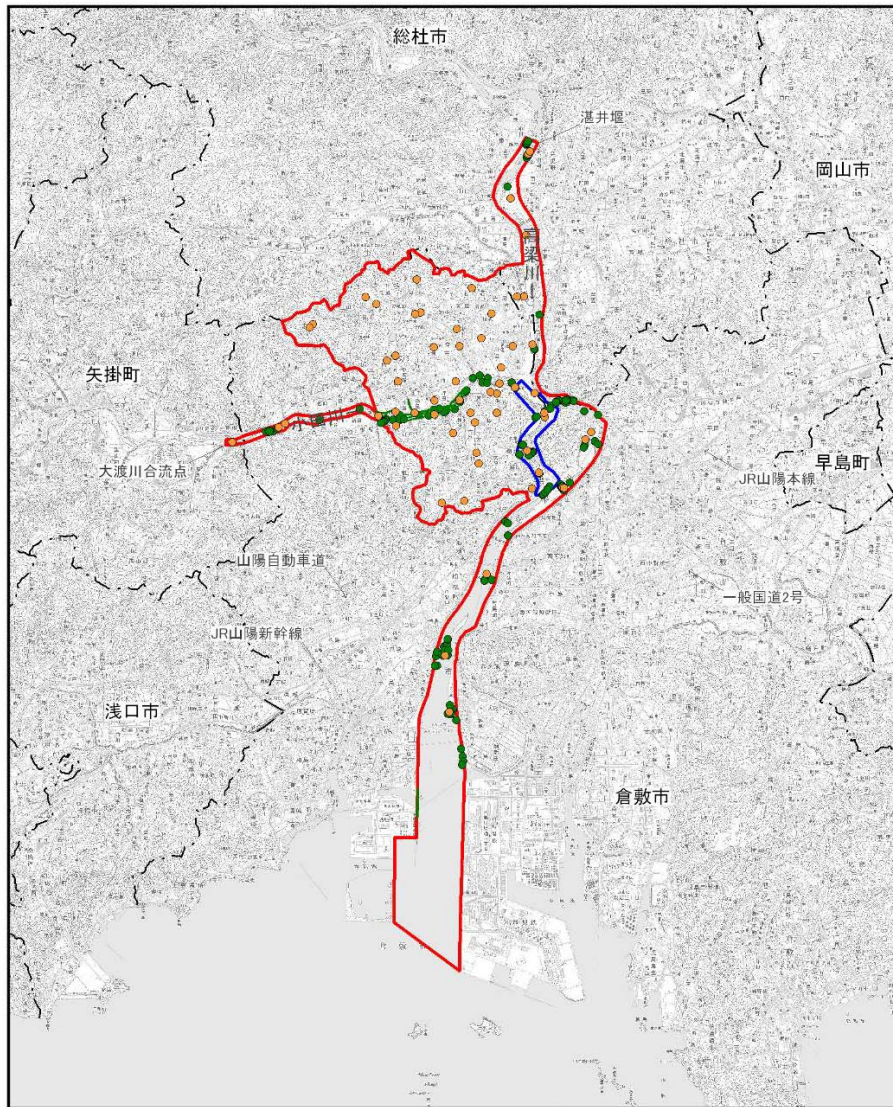
凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- · — · — : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 既往調査地区
- : 調査地点
- : 調査経路

Scale 1:150,000

0 1.5 3 6km

図2(2)
昆虫類調査地域、調査地点、
調査経路及び調査地区



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 既往調査地区
- : 調査地点

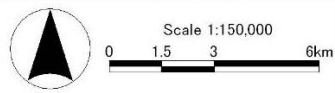
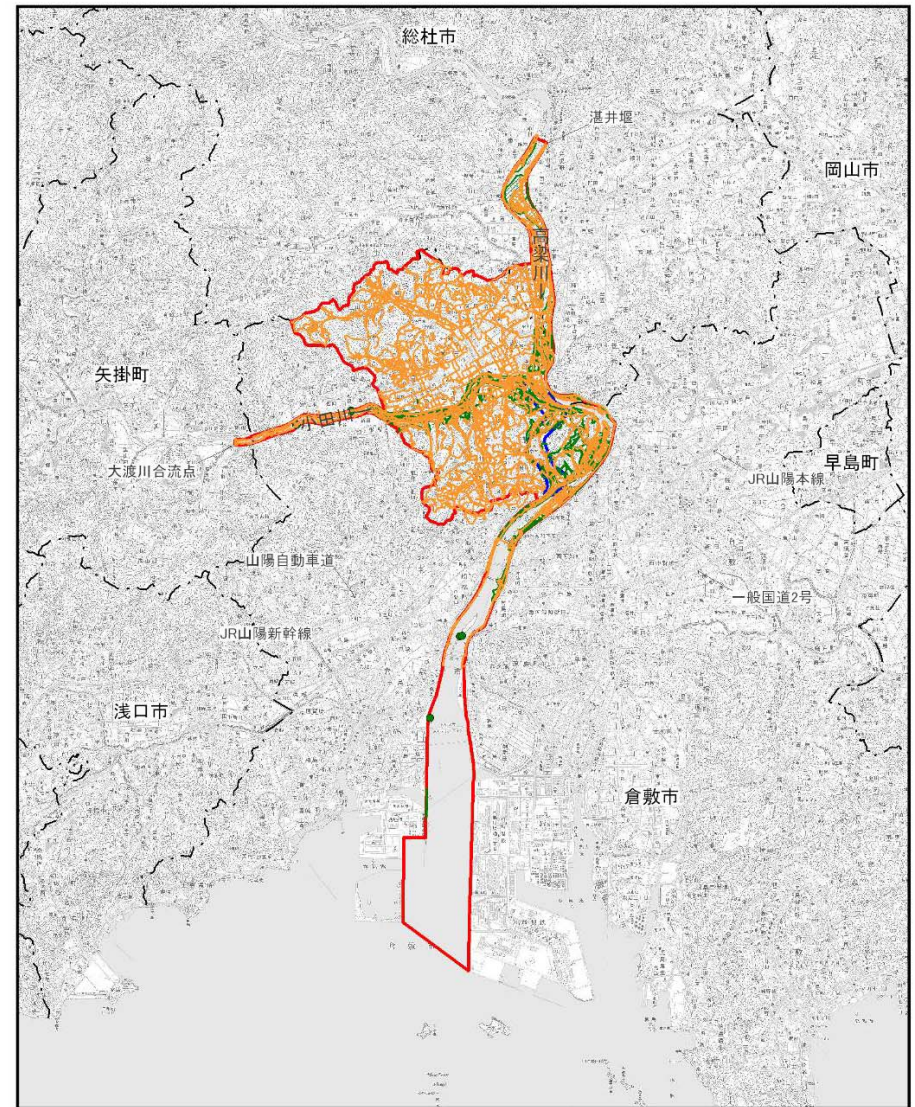


図2(3)
底生動物調査地域、調査地点
調査経路及び調査地区



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 既往調査地区
- : 調査経路

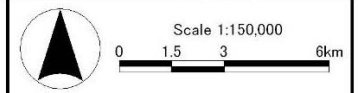


図2(4)
種子植物・シダ植物調査地域、
調査地点、調査経路及び
調査地区

(空白ページ)

○追加された重要な種の予測・評価結果

1. 動物

(1) 予測手法(動物) ①予測評価の考え方

※第5回技術検討委員会と同様

○予測対象種の抽出・主要な生息環境等の推定

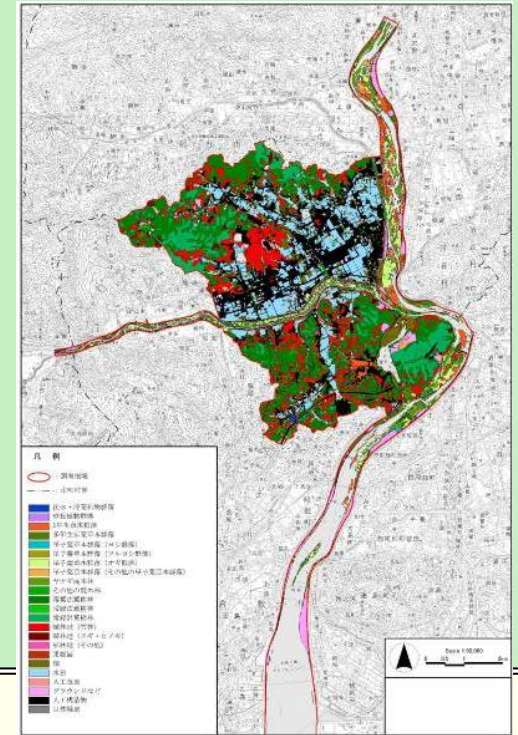
予測対象とする重要な種の抽出(スクリーニング)
 文献等による生態情報の整理
 行動圏・生息環境・採餌環境・繁殖環境・周期的な移動

各種の生活史を全うする上で重要となる
 生息環境条件の抽出

現地調査の
 確認状況

主要な生息環境の推定・図化

【主要な生息環境の推定】
 主要な生息環境の抽出は、原則として陸域は現地調査により作成した1/5,000植生図をもとに、河川域は生態系(典型性)により整理した環境類型区分をもとに行った。



○予測対象とする影響要因

工事中

供用後

直接改変
 ・生息地の消失
 又は改変

直接改変以外
 ・改変部付近の環境の変化
 ・建設機械の稼働に伴う環境の変化
 ・水質の変化
 ・地下水の水位の変化

直接改変
 ・生息地の消失
 又は改変

直接改変以外
 ・改変部付近の環境の変化
 ・水質の変化
 ・水位及び流速の変化
 ・河床構成材料の変化
 ・河岸の冠水頻度の変化
 ・地下水の水位の変化

11 * 直接改変では、土地の改変等のような生息地の直接的な改変による影響を取り扱う。
 * 直接改変以外では、土地の改変に伴う土砂による水の濁りの影響のような、生息環境の直接的な改変以外による影響を取り扱う。

(1) 予測手法(動物) ②予測対象種の抽出(スクリーニング)

- ・文献調査及び事業者の調査で確認された重要な種のうち、以下の種について予測評価を行う。
 - ・現地調査により、予測地域内で確認された種。
 - ・生態情報などにより、予測地域内を主要な生息地とすることが明らかな種。

○予測対象種から除外する理由

予測の対象から除外する種	理由
文献による確認のみで現地調査で確認されていない種	・十分な現地調査をしたものの、確認されなかったことから予測地域内を主要な生息地としていないと判断し、予測の対象種から除外した。
既往の現地調査で確認された種のうち確認記録が古い又は確認位置が明らかでない種	・現地調査の記録が古い又は確認された際に詳細な確認位置等の情報が記録されておらず、その後十分な現地調査をしたものの、確認されなかったことから、現時点において予測地域における生息の可能性は低いと判断し、予測の対象から除外した。
本来予測地域外に生息する種が一時的に確認されたと考えられる種	・生態情報から、本来予測地域外に生息する種が一時的に確認された可能性が高いと判断し、予測の対象から除外した。

○予測対象種の抽出結果

分類群	環境省レッドリスト改訂により追加された種	スクリーニング結果 予測対象種
鳥類	3科 6種	2科 4種
昆虫類	18科 43種	13科 23種
底生動物	5科 8種※1	5科 8種※1

※1:底生動物のうち6種は、昆虫類と重複している。

(参考) 表1 旧レッドリストを基準とし選定した重要な種

分類群	重要な種		スクリーニング結果 予測対象種	
鳥類	29科	63種	18科	33種
昆虫類	38科	59種	19科	23種
底生動物	33科	47種	32科	41種※

※8種は、昆虫類と重複。

表2 新レッドリストを基準とし選定した重要な種

分類群	重要な種		スクリーニング結果 予測対象種	
鳥類	29科	69種	18科	37種
昆虫類	50科	102種	30科	46種
底生動物	35科	55種	34科	49種※

※14種は、昆虫類と重複。

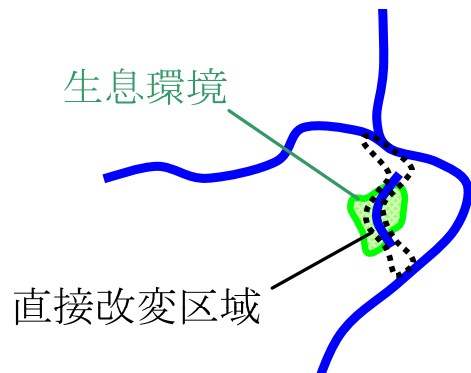
(1) 予測手法(動物) ③直接改変の影響の有無と程度の予測

※第5回技術検討委員会と同様

【直接改変の影響】

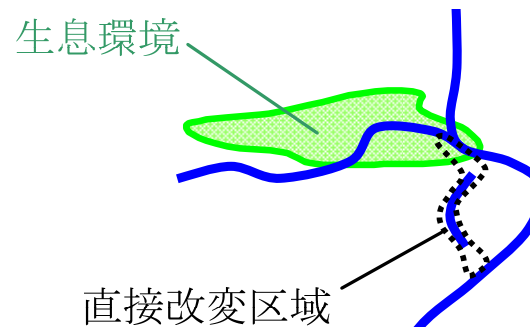
- ・推定した「主要な生息環境」と事業計画を重ね合わせ、改変の程度を整理することにより、種毎の直接改変の影響の有無と程度を予測した。

A. 主要な生息環境が
改変区域外に広く連続
しては残らない



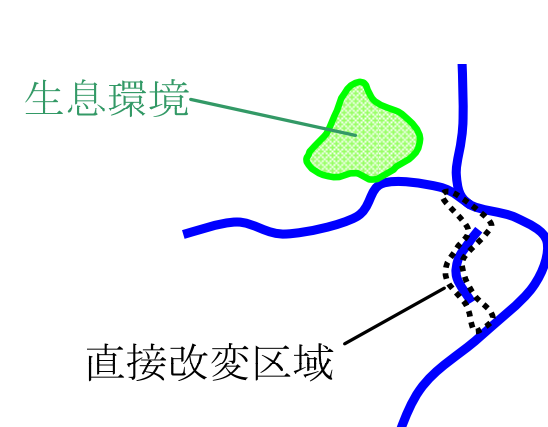
生息地の消失又は改変の
影響を受け、生息に与える
影響があると予測される。

B. 主要な生息環境が
改変区域外に広く連続
して残る



生息地の消失又は改変の
影響を受けるが、生息に
与える影響は極めて小さ
いと予測される。

C. 主要な生息環境が
改変区域に分布しない



影響はない。

(1) 予測手法(動物) ④直接改変以外の影響の有無と程度の予測

※第5回技術検討委員会と同様

- 【直接改変以外の影響】: 改変部付近、建設機械の稼働等に伴う環境の変化、水質の変化、
 水位及び流速の変化、河床構成材料の変化、河岸の冠水頻度の変化、地下水の水位の変化
- ・水質、水位及び流速、河床構成材料、河岸の冠水頻度、地下水の水位の変化の程度を整理。
 - ・種毎の生態特性も考慮し、事業による影響の有無と程度を予測。

○影響要因毎の想定される変化

影響要因	改変部付近の環境の変化	建設機械の稼働等に伴う環境の変化	水質の変化	水位及び流速の変化
工事中	改変部が樹林地に該当する場合、直接改変区域の周辺は、樹林環境から林縁環境へと変化する。このため、樹林内を主な生息場とする動物の生息状況が変化する可能性がある。	人の出入り、建設機械の稼働及び車両の通行等による生息環境の攪乱に伴い、動物の生息状況が変化する可能性がある。	土砂による水の濁り、富栄養化及び溶存酸素量の変化が生じた場合、水域に依存して生息する動物の生息状況が変化する可能性がある。	—
供用後	(工事中と同様)	—	(工事中と同様)	水位及び流速の変化が生じた場合、水域に依存して生息する生物の他、水際の植生や河原に依存して生息する動物の生息状況が変化する可能性がある。

影響要因	河床構成材料の変化	河岸の冠水頻度の変化	地下水の水位の変化
工事中	—	—	地下水の水位の変化が生じた場合、休耕田等に依存して生息する動物の生息状況が変化する可能性がある。
供用後	土砂供給及び流況等の変化により、河床構成材料の変化が生じた場合、河川域の水底に依存して生息する動物の生息状況が変化する可能性がある。	河岸の冠水頻度の変化が生じた場合、河川敷の水際の植生や河原に依存して生息する動物の生息状況が変化する可能性がある。	(工事中と同様)

(2) 予測結果(動物)

【直接改変】⇒直接改変に主要な生息環境が局在する種はないため、影響は極めて小さいと予測される。

【直接改変以外】⇒下表に示すとおり、いずれの影響要因についても、影響は極めて小さいと予測される。

影響要因	改変部付近の環境の変化	建設機械の稼働等に伴う環境の変化	水質の変化
	工事中・供用後	工事中	工事中・供用後
予測対象種 (鳥類、昆虫類、 底生動物)	行動域の大きさと生息環境から、昆虫類のうち、生活史の全て又は一部を樹林環境に依存して生息する種を対象	視覚的あるいは聴覚的な生態特性から、鳥類を対象	生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する鳥類、昆虫類、底生動物を対象
予測結果	樹林が改変される範囲はわずかであり、樹林環境から林縁環境へと変化することによる重要な種への影響は極めて小さいと考えられる。	工事区域の近傍は、工事中には予測対象種の生息環境として適さなくなる可能性があるが、周辺に「主要な生息環境」が広く分布していることから、重要な種への影響は極めて小さいと考えられる。 また、発破による騒音及び振動の発生が想定されるが、発破地点から最も近い猛禽類の営巣地までは約1.2km離れていることから、影響は極めて小さいと考えられる。	水質は、工事前と同程度又は変化は極めて小さいことから、重要な種の生息環境は維持されると考えられるため、影響は極めて小さいと予測される。

影響要因	水位及び流速の変化	河床構成材料の変化	河岸の冠水頻度の変化	地下水の水位の変化
	供用後	供用後	供用後	工事中・供用後
予測対象種 (鳥類、昆虫類、 底生動物)	生活史の全て又は一部を水域、河川の水底に依存して生息する昆虫類、底生動物の他、魚類等を採餌する鳥類、水際の植生や裸地に依存して生息する昆虫類を対象			生活史の全て又は一部を水田や用水路等に依存して生息する鳥類、昆虫類を対象
予測結果	水位及び流速の変化、河床構成材料の変化、河岸の冠水頻度の変化により、生息環境が変化すると考えられるが、これらの変化が大きいのは一部の区間であり、区間全体では変化は極めて小さい。 ↓ 変化が大きい区間に局所的に依存するような重要な種は確認されていないことから、重要な種への影響は極めて小さいと予測される。			工事中(柳井原地区)及び供用後(柳井原地区・真備平野)は、生息環境の変化が生じる可能性がある範囲は局所的であり、地下水の水位の変化量は過去の変動範囲内である。また、水田では人為的に水位操作が行われていることから、水田やその周辺に生息する重要な種の生息環境は維持されると考えられるため、影響は極めて小さいと予測される。

・環境省レッドリストの改訂により追加された重要な種の予測評価を行った結果、全ての種について、「影響は極めて小さい」と判断されたため、環境保全措置の検討は実施しない。

2. 植物

(1) 予測手法(植物) ①予測評価の考え方

※第5回技術検討委員会と同様

○生育状況等の整理

予測対象とする重要な種の抽出(スクリーニング)
予測地域における生育状況の把握

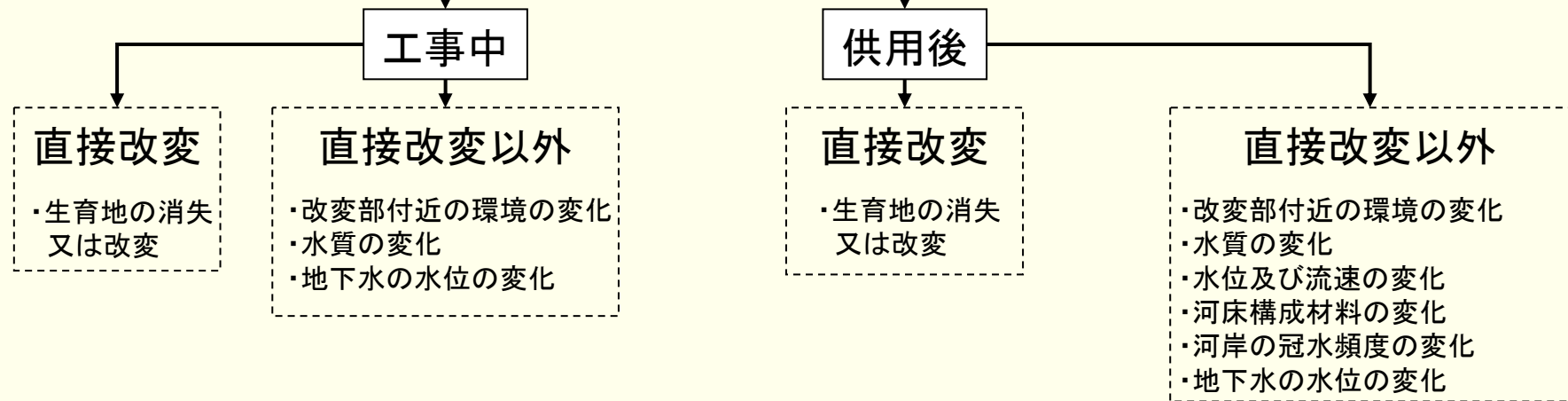
【現地調査】

- ・確認地点の環境
- ・確認内容(植栽の有無)
- ・確認頻度(個体数、群生地等)

【文献調査】

- ・生育環境
- ・その他(生活型、減少要因等)

○予測対象とする影響要因



* 直接改変では、土地の改変等のような生息地の直接的な改変による影響を取り扱う。

* 直接改変以外では、土地の改変に伴う土砂による水の濁りの影響のような、生息環境の直接的な改変以外による影響を取り扱う。

(1) 予測手法(植物) ②予測対象種の抽出(スクリーニング)

- ・文献調査及び事業者の調査で確認された重要な種のうち、以下の種について予測評価を行う。
 - ・**現地調査により、予測地域内で確認された種。**

○予測対象種から除外する理由

予測の対象から除外する種	理由
文献による確認のみで現地調査で確認されていない種	・十分な現地調査をしたものの、確認されなかったことから予測地域内を主要な生息地としていないと判断し、予測の対象種から除外した。
既往の事業者の調査のみで確認されている種	・既往の確認地点を追認するため、近年、十分な現地調査をしたものの、確認されなかったことから、現在は、予測地域内に主要な生育地がないと判断し、予測の対象種から除外した。

○スクリーニングの結果

分類群	環境省レッドリスト改訂により追加された種	スクリーニング結果 予測対象種
種子植物・シダ植物	1科 1種	0科 0種

(参考)

表1 旧レッドリストを基準とし選定した重要な種

分類群	旧レッドリストで選定した重要な種	スクリーニング結果 予測対象種
種子植物・シダ植物	46科 89種	35科 54種

表2 新レッドリストを基準とし選定した重要な種

分類群	新レッドリストで選定した重要な種	スクリーニング結果 予測対象種
種子植物・シダ植物	46科 90種	35科 54種

- ・環境省レッドリストの改訂により追加となった1種は、文献による確認のみで、事業者の調査において十分な調査を実施したが確認されなかったため、予測地域内に生育する可能性が極めて低いと判断されたため、予測対象種から除外した。
- ・よって、植物については、予測・評価の追加種はない。

【参考資料】

○重要な種の一覧

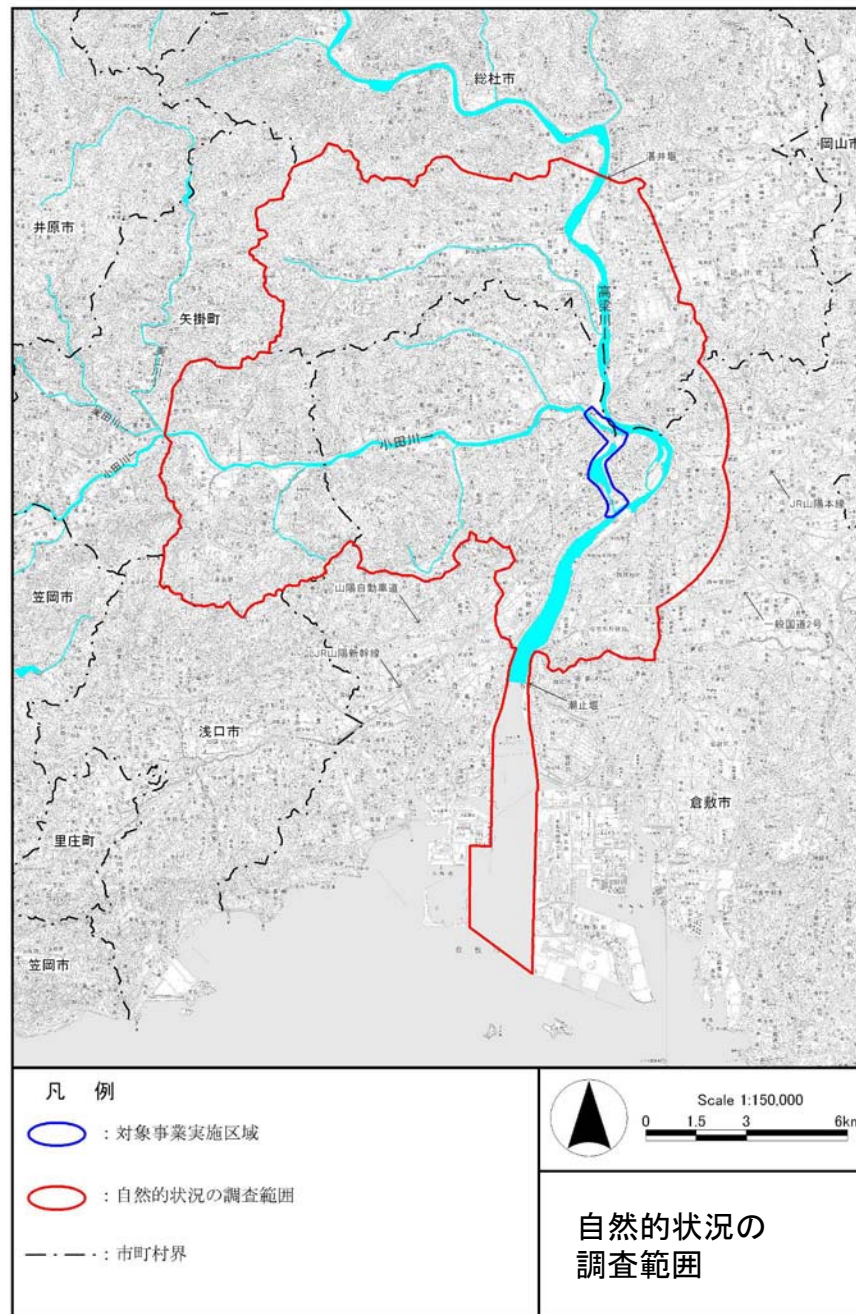
○ 準備書に掲載する重要な種について

【動物の重要な種の選定根拠】

- a.「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」に基づき指定された天然記念物又は特別天然記念物、「岡山県文化財保護条例(昭和29年岡山県条例第90号)」、「倉敷市文化財保護条例(昭和42年倉敷市条例第97号)」、「総社市文化財保護条例(平成17年総社市条例第117号)」、「矢掛町文化財保護条例(昭和32年矢掛町条例第5号)」に基づき指定された天然記念物
- b.「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」に基づき指定された国内希少野生動植物種又は緊急指定種
- c.「岡山県希少野生動植物保護条例(平成15年岡山県条例第64号)」に基づく指定希少野生動植物
- d.「第4次レッドリストの公表について(お知らせ)(環境省 平成24年8月)」に掲載されている種
- e.「岡山県版レッドデータブック2009－絶滅のおそれのある野生生物－(岡山県 平成22年4月)」に掲載されている種
- f.その他専門家により指摘された重要な種

【植物の重要な種の選定根拠】

- a.「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」に基づき指定された天然記念物又は特別天然記念物、「岡山県文化財保護条例(昭和29年岡山県条例第90号)」、「倉敷市文化財保護条例(昭和42年倉敷市条例第97号)」、「総社市文化財保護条例(平成17年総社市条例第117号)」、「矢掛町文化財保護条例(昭和32年矢掛町条例第5号)」に基づき指定された天然記念物
- b.「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」に基づき指定された国内希少野生動植物種又は緊急指定種
- c.「岡山県希少野生動植物保護条例(平成15年岡山県条例第64号)」に基づく指定希少野生動植物
- d.「第4次レッドリストの公表について(お知らせ)(環境省 平成24年8月)」に掲載されている種
- e.「岡山県版レッドデータブック2009－絶滅のおそれのある野生生物－(岡山県 平成22年4月)」に掲載されている種
- f.その他専門家により指摘された重要な種



○ 準備書に掲載する重要な種について

項目	文献・現地調査 総種数(一般種含む)	調査対象とした重要な種(文献含む)		新旧レッドリスト変更内容	
		旧レッドリスト	新レッドリスト	追加・削除	カテゴリー変更
哺乳類	15科 28種	5科 6種	5科 6種	—	—
鳥類	54科 228種	29科 63種	29科 69種	追加:3科 6種	7科 7種
両生類	5科 11種	4科 5種	4科 5種	—	1科 1種
爬虫類	7科 15種	4科 4種	4科 4種	—	2科 2種
魚類	36科 108種	11科 33種	—	—	—
昆虫類	340科 3,451種	38科 59種	50科 102種	追加:18科 43種	11科 16種
底生動物	207科 530種	33科 47種	35科 55種	追加:5科 8種	8科 11種
クモ類	37科 293種	3科 3種	3科 3種	—	—
陸産貝類	24科 63種	10科 19種	10科 19種	—	1科 1種
種子植物・シダ植物	162科 1,399種	46科 89種	46科 90種	追加:1科 1種	4科 4種
付着藻類	28科 184種	—	—	—	—
蘚苔類	53科 118種	3科 4種	3科 3種	削除:1科 1種	—



※このうち14種は昆虫類と重複

○ 準備書に掲載する重要な種について

【環境省RL改訂内容の凡例】

追加: 環境省レッドリストに新たに選定された種のうち、岡山県RDBで選定されておらず、新たに重要な種に追加された種

変更(新規): 環境省レッドリストに新たに選定された種のうち、岡山県RDBではすでに選定されていた種

変更(削除): 環境省レッドリストから削除された種のうち、岡山県RDBでは選定されている種

変更(アップ): 環境省レッドリストのカテゴリーがランプアップした種

変更(ダウン): 環境省レッドリストのカテゴリーがランクダウンした種

変更(細分化): 環境省レッドリストのカテゴリー(Ⅰ類)が細分化された種

一般種にダウン: 環境省レッドリストから削除された種のうち、岡山県RDBで選定されておらず、一般種となった種

表1 哺乳類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
1	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	○							Ⅱ類			
2	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ		○						Ⅱ類			●
3		ユビナガコウモリ		○						Ⅱ類			●
4	リス科	ムササビ	○							準絶			
5	ネズミ科	カヤネズミ	○	○						準絶			●
6	イタチ科	イタチ属*1	○	○						不足			●
合計	5科	6種	4種	4種	0	0	0	0	0	6種	0	—	4種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表2 鳥類の重要な種(1/2)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
1	サギ科	ヨシゴイ	○	○				準絶	準絶	Ⅱ類			
2		ミゾゴイ	○	○				I B類	Ⅱ類	I類		変更(ダウン)	●
3		チュウサギ	○	○				準絶	準絶	Ⅱ類			●
4		カラシラサギ	○					準絶	準絶	不足			
5		クロサギ	○	○						不足			
6	トキ科	クロツラヘラサギ		○				I A類	I B類	I類		変更(ダウン)	
7	カモ科	ツクシガモ		○				I B類	Ⅱ類	Ⅱ類		変更(ダウン)	
8		オシドリ		○				不足	不足	準絶			●
9	タカ科	ミサゴ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
10		ハチクマ	○	○				準絶	準絶	Ⅱ類			●
11		オオタカ	○	○		希		準絶	準絶	Ⅱ類			●
12		ツミ	○	○						Ⅱ類			●
13		ハイタカ	○	○				準絶	準絶	Ⅱ類			●
14		ノスリ	○	○						準絶			●
15		サシバ	○	○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
16		ハイイロチュウヒ		○						準絶			●
17		チュウヒ		○				I B類	I B類	I類			●
18	ハヤブサ科	ハヤブサ	○	○		希		Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
19		チョウゲンボウ	○	○						準絶			●
20	キジ科	ウズラ	○	○				準絶	Ⅱ類	不足		変更(アップ)	●
21	ツル科	タンチョウ	○		特天	希		Ⅱ類	Ⅱ類	不足			
22		ナベヅル	○					Ⅱ類	Ⅱ類	不足			
23		マナヅル	○					Ⅱ類	Ⅱ類	不足			
24	クイナ科	クイナ	○	○						Ⅱ類			●
25		ヒクイナ	○	○				Ⅱ類	準絶	Ⅱ類		変更(ダウン)	●
26	タマシギ科	タマシギ	○	○					Ⅱ類	準絶		変更(新規)	●
27	チドリ科	イカルチドリ	○	○						準絶			●
28		シロチドリ	○	○						Ⅱ類		追加	●
29		ケリ	○	○						不足		追加	●
30	シギ科	ハマシギ	○	○						準絶		追加	●
31		アカアシシギ	○					Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			
32		カラフトアオアシシギ	○			希		I A類	I A類	不足			
33		タカブシギ	○	○						Ⅱ類		追加	
34		オオソリハシシギ	○	○						Ⅱ類		追加	●
35		ホウロクシギ	○	○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
36		コシヤクシギ	○					I B類	I B類	不足			

注)「日本鳥類目録」は第6版(2000年)でとりまとめている。

□ : レッドリスト改訂により追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表2 鳥類の重要な種(2/2)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
37	(シギ科)	オオジシギ		○				準絶	準絶	I類			
38	カモメ科	ズグロカモメ	○	○				II類	II類	II類			●
39		コアジサシ	○	○				II類	II類	I類			●
40	カッコウ科	ジュウイチ	○							準絶			
41		カッコウ	○	○						留意			●
42		ツツドリ	○	○						留意			●
43	フクロウ科	コミズク	○							II類			
44		コノハズク	○							I類			
45		アオバズク	○	○						II類			
46		フクロウ	○	○						II類			●
47	ヨタカ科	ヨタカ	○	○				II類	準絶	I類		変更(ダウン)	
48	カワセミ科	ヤマセミ	○	○						II類			●
49		アカショウビン	○							I類			
50	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	○					IB類	IB類	I類			
51	キツツキ科	アカゲラ	○							準絶			
52		オオアカゲラ	○							準絶			
53	サンショウクイ科	サンショウクイ	○	○				II類	II類	II類			
54	モズ科	チゴモズ		○				IA類	IA類	I類			
55	カワガラス科	カワガラス	○	○						留意			
56	ツグミ科	コマドリ		○						準絶			
57		コルリ	○							準絶			
58		マミジロ	○							準絶			
59	ウグイス科	マキノセンニュウ		○					準絶			追加	
60		コヨシキリ		○						不足			●
61		オオヨシキリ	○	○						留意			●
62	ヒタキ科	キビタキ	○	○						留意			●
63		オオルリ	○	○						留意			●
64	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	○	○						準絶			●
65	ツリスガラ科	ツリスガラ		○						準絶			●
66	シジュウカラ科	コガラ	○							留意			
67	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	○							留意			
68	ホオジロ科	ホオアカ	○	○						留意			●
69		ノジコ	○	○				準絶	準絶	不足			
合計	29科	69種	57種	51種	1種	4種	0種	31種	38種	63種	0種	—	37種

注)「日本鳥類目録」は第6版(2000年)でとりまとめている。

■ :レッドリスト改訂により重要種として追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表3 両生類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
1	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	○	○				II類	II類	I類			●
2	イモリ科	イモリ		○				準絶	準絶	準絶			●
3	アカガエル科	トノサマガエル	○	○					準絶	留意		変更(新規)	●
4		ナゴヤダルマガエル*1	○	○				IB類	IB類	I類			●
5	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	○	○						留意			●
合計	4科	5種	4種	5種	0	0	0	4種	3種	5種	0	—	5種

*1:「日本産爬虫両生類標準和名(日本爬虫両棲類学会 平成20年5月改訂)」に従い、「ナゴヤダルマガエル」と表記する。

表4 爬虫類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
1	イシガメ科	イシガメ	○	○				不足	準絶	II類		変更(アップ)	●
2	スッポン科	スッポン	○	○				不足	不足	不足			●
3	ヤモリ科	タワヤモリ	○						準絶	II類		変更(新規)	
4	ヘビ科	シロマダラ	○	○						II類			●
合計	4科	4種	4種	3種	0	0	0	2種	3種	4種	0	—	3種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表5 魚類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由						予測対象
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d	e	f	
1	ウナギ科	ウナギ	○	○				不足			●
2	コイ科	ヤリタナゴ	○	○				準絶	準絶		●
3		アブラボテ	○	○				準絶	準絶		●
4		カネヒラ	○	○					準絶		●
5		イチモンジタナゴ	○	○				I A類	不足		●
6		シロヒレタビラ	○	○				I B類	I 類		●
7		スイゲンゼニタナゴ		○		希		I A類	I 類		●
8		アブラハヤ		○					準絶		●
9		カワヒガイ	○	○				準絶	準絶		●
10		ゼゼラ	○	○					準絶		●
11		ツチフキ	○	○				II 類	II 類		●
12		ズナガニゴイ	○	○					準絶		●
13		ドジョウ科	アユモドキ	○		天	希		I A類	I 類	
14	ドジョウ		○	○					留意		●
15	スジシマドジョウ中型種		○	○				II 類	準絶		●
16	スジシマドジョウ小型種山陽型		○	○				I A類	I 類		●
17	アカザ科	アカザ		○				II 類	II 類		●
18	シラウオ科	シラウオ	○					II 類			
19	サケ科	サツキマス		○				準絶	不足		●
20	メダカ科	メダカ	○	○				II 類	留意		●
21	サヨリ科	サヨリ類		○				準絶	不足		●
22	カジカ科	カジカ中卵型		○				I B類	不足		●
23	スズキ科	オヤニラミ	○	○				II 類	II 類		●
24	ハゼ科	カワアナゴ	○						準絶		
25		タビラクチ		○				I B類	II 類		●
26		トビハゼ	○	○				準絶	留意		●
27		チワラスボ		○				I B類	II 類		●
28		シロウオ	○	○				II 類	II 類		●
29		ヒモハゼ		○				準絶	準絶		●
30		スミウキゴリ	○	○					II 類		●
31		ウキゴリ	○	○					準絶		●
32		ゴクラクハゼ	○	○					準絶		●
33		オオヨシノボリ		○					準絶		●
合計	11科	33種	23種	30種	1種	2種	0種	22種	32種	0種	30種

※魚類の環境省レッドリストは、現時点(平成24年12月11日)では改訂されていない。

○ 準備書に掲載する重要な種について

表6 昆虫類の重要な種(1/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由						予測対象			
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e		f	環境省RL改訂内容	
								旧	新					
1	モノサシトンボ科	ゲンバイトンボ	○					準絶	準絶	準絶				
2	カワトンボ科	ニホンカワトンボ		○						留意			●	
3	ヤンマ科	アオヤンマ	○						準絶			追加		
4	サナエトンボ科	ミヤマサナエ	○							留意				
5		キイロサナエ	○	○					準絶	準絶		追加	●	
6		ナゴヤサナエ	○	○					準絶	Ⅱ類	準絶	変更(アップ)	●	
7		タベサナエ	○	○					準絶	準絶		追加	●	
8		フタスジサナエ	○	○					準絶	準絶	留意		●	
9		オグマサナエ	○	○					Ⅱ類	準絶	準絶	変更(ダウン)	●	
10		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	○							留意			
11		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	○	○					準絶	準絶	準絶		●
12			ハネビロエゾトンボ	○						Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		
13	トンボ科	ハッチョウトンボ	○							留意				
14		ナニワトンボ	○	○					Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類		●	
15		オオキトンボ	○						Ⅰ類	ⅠB類	Ⅰ類	変更(細分化)		
16	カマキリ科	ウスバカマキリ		○					不足	不足	不足			
17	イナゴ科	セグロイナゴ	○	○						Ⅱ類			●	
18	キジラミ科	エノキカイガラキジラミ		○					準絶	準絶			●	
19	サシガメ科	オオアシナガサシガメ		○						準絶		追加	●	
20	ハナカメムシ科	ズイムシハナカメムシ		○					Ⅱ類	準絶		変更(ダウン)		
21	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ	○	○					準絶	準絶	準絶		●	
22	アメンボ科	エサキアメンボ	○						準絶	準絶	不足			
23	ミズムシ科	ホッケミズムシ	○						準絶	準絶	準絶			
24		ナガミズムシ	○	○					準絶	準絶	不足			
25	コオイムシ科	コオイムシ	○	○					準絶	準絶	準絶		●	
26		タガメ	○						Ⅱ類	Ⅱ類	準絶			
27	ツノトンボ科	キバネツノトンボ	○							準絶				
28	シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	○							留意				
29		クロツバメシジミ西日本亜種	○						準絶	準絶	Ⅱ類			
30		シルビアシジミ	○	○					Ⅰ類	ⅠB類	留意	変更(細分化)	●	
31	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	○						準絶	Ⅱ類	準絶	変更(アップ)		
32		オオウラギンヒョウモン	○						Ⅰ類	ⅠA類	Ⅰ類	変更(細分化)		
33		オオムラサキ	○	○					準絶	準絶	留意		●	
34		ヒメヒカゲ本州西部亜種	○						Ⅰ類	ⅠB類	Ⅰ類	変更(細分化)		
35		ウラナミジャノメ本土亜種	○	○					Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		●	

：レッドリスト改訂により重要種として追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表6 昆虫類の重要な種(2/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象		
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容	
								旧	新					
36	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	○	○				Ⅱ類	I B類	留意		変更(アップ)	●	
37	ヤママユガ科	オナガミズアオ	○						準絶			追加		
38	スズメガ科	ギンボシスズメ	○							留意				
39	シヤチホコガ科	シノノメシヤチホコ	○							留意				
40	ヒトリガ科	ヤネホソバ		○								追加	●	
41	ドクガ科	スゲドクガ		○								追加	●	
42	ヤガ科	アカヘリヤガ	○									追加		
43		コシロシタバ	○	○								追加	●	
44		カバフキシタバ	○								留意			
45		キシタアツバ	○	○								追加	●	
46		オオチャバネヨトウ	○					Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類				
47		ギンモンアカヨトウ		○					Ⅱ類	Ⅱ類			追加	●
48	ツリアブ科	トラツリアブ	○							留意				
49	ハナアブ科	スズキベッコウハナアブ	○							不足				
50	オサムシ科	ヒツメアオゴミムシ	○									追加		
51		オオサカアオゴミムシ	○					不足	不足	Ⅱ類				
52		ツヤキベリアオゴミムシ	○									追加		
53		タナカツヤハネゴミムシ	○	○								追加	●	
54		チョウセンゴモクムシ	○	○				Ⅱ類	Ⅱ類		○		追加	●
55		オオトックリゴミムシ	○										追加	
56		オオヒラタトックリゴミムシ	○										追加	
57		イグチケブカゴミムシ	○	○									追加	
58		ハマベゴミムシ		○				準絶	準絶	留意				●
59		カワラハンミョウ	○					Ⅱ類	I B類	絶滅			変更(アップ)	
60		アイヌハンミョウ		○					準絶				追加	●
61		ルイスハンミョウ	○					Ⅱ類	I B類	絶滅			変更(アップ)	
62	ホソハンミョウ	○					準絶	Ⅱ類	準絶			変更(アップ)		
63	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	○									追加		
64		マルガタゲンゴロウ	○					準絶	Ⅱ類	Ⅱ類		変更(アップ)		
65		マルケシゲンゴロウ	○									追加		
66		ケシゲンゴロウ	○									追加		
67		キベリクロヒメゲンゴロウ	○									追加		
68		ルイスツブゲンゴロウ	○									追加		
69		シャープツブゲンゴロウ	○									追加		
70		マルチビゲンゲンゴロウ		○								追加	●	
71		キベリマメゲンゴロウ	○	○								追加	●	
72		モンキマメゲンゴロウ		○							留意			

○ 準備書に掲載する重要な種について

表6 昆虫類の重要な種(3/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
73	ミズスマシ科	オオミズスマシ	○	○					準絶			追加	
74		コオナギミズスマシ	○						Ⅱ類			追加	
75	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ	○						準絶	Ⅱ類	不足	変更(アップ)	
76	ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ		○						準絶		追加	●
77	ガムシ科	マルヒラタガムシ		○						準絶		追加	●
78		スジヒラタガムシ	○	○						準絶		追加	●
79		コガムシ	○	○						不足		追加	●
80		ガムシ		○						準絶		追加	●
81		コガタガムシ	○							Ⅱ類		追加	
82		ミユキシジミガムシ		○						準絶		追加	●
83	シテムシ科	ヤマトモンシテムシ	○	○					準絶	準絶	準絶		●
84	ハネカクシ科	オオツノハネカクシ		○					不足	不足	留意		●
85	クワガタムシ科	オオクワガタ	○						Ⅱ類	Ⅱ類	留意		
86	コガネムシ科	アカマダラコガネ	○						不足	不足			
87	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ		○					Ⅱ類	Ⅱ類	留意		●
88	コメツキムシ科	ミヤジマコガネコメツキ	○								留意		
89	カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	○						Ⅱ類	ⅠB類	準絶	変更(アップ)	
90	ヒメバチ科	オオホシオナガバチ		○							留意		
91	セイボウ科	オオセイボウ	○	○						不足		追加	●
92	アリ科	トゲアリ	○	○						Ⅱ類		追加	●
93	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	○	○						不足		追加	●
94		モンズズメバチ	○	○						不足		追加	●
95	ベッコウバチ科	アケボノベッコウ		○					不足	不足			●
96	ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ		○						不足		追加	
97		キアシハナダカバチモドキ	○	○					準絶	Ⅱ類	留意	変更(アップ)	●
98	アナバチ科	キゴシジガバチ		○							準絶		●
99	ミツバチ科	クロマルハナバチ	○	○						準絶		追加	●
100		ナミルリモンハナバチ	○							不足		追加	
101	ハキリバチ科	キバラハキリバチ		○					準絶	準絶	準絶		●
102		マイマイツツハナバチ		○						不足		追加	
合計	50科	102種	78種	55種	0	0	0	43種	85種	54種	1種	59種	46種

■ :レッドリスト改訂により重要種として追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表7 底生動物の重要な種(1/2)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由						環境省RL改訂内容	予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e			f
								旧	新				
1	タニシ科	マルタニシ	○					準絶	Ⅱ類	準絶		変更(アップ)	
2		オオタニシ	○					準絶	準絶	準絶			
3	カワニナ科	クロダカワニナ		○				準絶	準絶	準絶			●
4	ウミニナ科	イボウミニナ		○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅰ類			●
5	カワグチツボ科	カワグチツボ		○				準絶	準絶	準絶			●
6	ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ		○				準絶	準絶	準絶			●
7	エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ		○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
8		マメタニシ	○	○				Ⅱ類	Ⅱ類	準絶			●
9	タマガイ科	ゴマフタマガイ		○						留意			●
10	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ	○	○					不足	不足		変更(新規)	●
11		モノアラガイ	○	○				準絶	準絶	不足			●
12	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	○	○				不足	不足	不足			●
13		トウキョウヒラマキガイ		○					不足			追加	●
14		ヒラマキガイモドキ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
15	ハボウキガイ科	タイラギ		○					準絶	準絶		変更(新規)	●
16	イシガイ科	カラスガイ	○					準絶	準絶	準絶			
17		オバエボシガイ	○					Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			
18		ニセマツカサガイ	○					準絶	Ⅱ類	Ⅱ類		変更(アップ)	
19		トンガリササノハガイ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
20		カタハガイ	○	○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			
21		マツカサガイ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
22	チドリマスオ科	クチバガイ		○				準絶	準絶	準絶			●
23	ニッコウガイ科	テリザクラガイ		○					Ⅱ類	Ⅱ類		変更(新規)	●
24		ユウシオガイ		○					準絶	準絶		変更(新規)	●
25		ウズサクラガイ		○					準絶			追加	●
26	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ		○				準絶	準絶				●
27	シジミ科	マシジミ類	○	○						不足			●
28	マメシジミ科	マメシジミ属		○						不足			●
29	マルスダレガイ科	イヨスダレガイ		○						留意			●
30	オオノガイ科	オオノガイ		○					準絶	準絶		変更(新規)	●
31		クシケマスホウガイ		○					準絶	準絶		変更(新規)	●
32	グロシフォニ科	ミドリビル		○				不足	不足				●
33		イボビル		○				不足	不足				●

■ :レッドリスト改訂により重要種として追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表7 底生動物の重要な種(2/2)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象		
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容	
								旧	新					
34	ヌマエビ科	ヌマエビ	○	○						留意			●	
35	コブシガニ科	マメコブシガニ		○						準絶			●	
36	ムツハアリアケガニ科	ムツハアリアケガニ		○						Ⅱ類			●	
37	スナガニ科	ハクセンシオマネキ		○					Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		●	
38	ベンケイガニ科	クシテガニ		○						準絶			●	
39	モノサシトンボ科	グンバイトンボ		○					準絶	準絶	準絶		●	
40	カワトンボ科	ニホンカワトンボ*1		○						留意			●	
41	サナエトンボ科	キイロサナエ*1		○						準絶		追加	●	
42		ナゴヤサナエ*1		○					準絶	Ⅱ類	準絶	変更(アップ)	●	
43		タベサナエ*1		○						準絶		追加	●	
44		フタスジサナエ*1		○					準絶	準絶	留意		●	
45		オグマサナエ*1		○					Ⅱ類	準絶	準絶	変更(ダウン)	●	
46	エゾトンボ科	キイロヤマトンボ*1		○				準絶	準絶	準絶			●	
47	トンボ科	ナニワトンボ*1		○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●	
48	アミメカワゲラ科	フライソニアミメカワゲラ		○				準絶	準絶				●	
49	コオイムシ科	コオイムシ*1		○				準絶	準絶	準絶			●	
50	アシエダトビゲラ科	ビワアシエダトビゲラ		○				Ⅱ類	準絶	不足		変更(ダウン)	●	
51	ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ*1		○					準絶			追加	●	
52	ガムシ科	スジヒラタガムシ*1		○						準絶			追加	●
53		コガムシ*1		○						不足			追加	●
54		ガムシ*1		○						準絶			追加	●
55	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ*1		○				Ⅱ類	Ⅱ類	留意			●	
合計	35科	55種	15種	50種	0	0	0	32種	46種	43種	0	19種	49種	

*1: ニホンカワトンボ、キイロサナエ、ナゴヤサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、キイロヤマトンボ、ナニワトンボ、コオイムシ、キベリマメゲンゴロウ、スジヒラタガムシ、コガムシ、ガムシ及びヨコミゾドロムシの14種は、昆虫類と重複している。

■ : レッドリスト改訂により重要種として追加された種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表8 クモ類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL 変更内容
								旧	新				
1	ジグモ科	ワスレナグモ		○				準絶	準絶	不足			●
2	トタテグモ科	キノボリトタテグモ		○				準絶	準絶	不足			●
3	コガネグモ科	コガネグモ		○						留意			●
合計	3科	3種	0	3種	0	0	0	2種	2種	3種	0	—	3種

表9 陸産貝類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL 改訂内容
								旧	新				
1	オカミガイ科	オカミガイ	○					Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			
2	ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ		○				準絶	準絶	準絶			
3	ヤマタニシ科	サドヤマトガイ	○						準絶	準絶		変更(新規)	
4	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ		○				準絶	準絶	準絶			●
5	キバサナギガイ科	ナタネキバサナギガイ		○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
6	キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ		○						準絶			●
7	キセルガイ科	ホソヒメギセル	○					Ⅱ類	Ⅱ類	準絶			
8	ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウガイ	○	○				不足	不足	不足			●
9		キヌツヤベッコウ	○					不足	不足	不足			
10		ヒゼンキビ	○					準絶	準絶	準絶			
11		ヒメハリマキビ	○					準絶	準絶	準絶			
12		ウメムラシタラガイ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
13		オオウエキビ		○				不足	不足	準絶			●
14		ヒメカサキビ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
15	ナンバンマイマイ科	シメクチマイマイ	○	○						留意			●
16	オナジマイマイ科	チクヤケマイマイ		○						不足			●
17		コオオベソマイマイ	○	○						不足			●
18		コハクオナジマイマイ		○							留意		●
19		カタマメマイマイ		○				Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類			●
合計	10科	19種	11種	13種	0	0	0	13種	14種	19種	0	—	12種

○ 準備書に掲載する重要な種について

表10 種子・シダ植物の重要な種(1/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象			
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容		
								旧	新						
1	ミズワラビ科	ミズワラビ	○	○							準絶			●	
2	イノモトソウ科	アマクサンダ	○								留意				
3	オシダ科	ツクシイワヘゴ	○								留意				
4		イヌナチクジャク	○								準絶				
5		ナガサキシダ	○								Ⅱ類				
6	メシダ科	ミヤマノコギリシダ	○	○							Ⅱ類			●	
7		ヘラシダ		○							準絶			●	
8	デンジソウ科	デンジソウ	○	○						Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅰ類		●	
9	サンショウモ科	サンショウモ	○	○						準絶	Ⅱ類	準絶	変更(アップ)		
10	アカウキクサ科	アカウキクサ	○							Ⅱ類	ⅠB類	Ⅰ類	変更(アップ)		
11	イラクサ科	ホソバイラクサ		○								Ⅱ類		●	
12	タデ科	ウナギツカミ	○									準絶			
13		サクラタデ	○	○									準絶		●
14		ホソバイヌタデ	○	○							準絶	準絶			●
15		ヤナギヌカボ		○							Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		●
16		ナガバノウナギツカミ	○								準絶	準絶			
17		ヌカボタデ	○								Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		
18		コギシギシ	○	○							Ⅱ類	Ⅱ類			●
19		キンポウゲ科	オキナグサ	○							Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅰ類		
20	ヒキノカサ		○								Ⅱ類	Ⅱ類	準絶		
21	スイレン科	オニバス		○						Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅱ類		●	
22	センリョウ科	キビヒトリシズカ	○							Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅰ類			
25	オトギリソウ科	アゼオトギリ	○	○						ⅠB類	ⅠB類	Ⅱ類		●	
24	モウセンゴケ科	イシモチソウ	○	○						準絶	準絶	準絶		●	
25	アブラナ科	コイヌガラシ	○	○						準絶	準絶			●	
26	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	○							準絶	準絶				
27	ユキノシタ科	タコノアシ	○	○						準絶	準絶	準絶		●	
28	バラ科	カワラサイコ		○								準絶		●	
29		ニオイイバラ	○									準絶			
30		ユキヤナギ	○	○								準絶			
31	マメ科	イヌハギ		○						準絶	Ⅱ類	準絶	変更(アップ)	●	
32	トウダイグサ科	タカトウダイ	○	○								準絶			
33	ブドウ科	シラガブドウ	○	○						ⅠB類	ⅠB類	留意		●	
34	グミ科	ナツアサドリ	○	○								留意		●	
35	ミソハギ科	ミズマツバ		○						Ⅱ類	Ⅱ類			●	
36	アリノトウグサ科	タチモ	○	○						準絶	準絶			●	
37	セリ科	ミシマサイコ	○							Ⅱ類	Ⅱ類	準絶			
38	マチン科	チトセカズラ	○							Ⅱ類	Ⅱ類				

○ 準備書に掲載する重要な種について

表10 種子・シダ植物の重要な種(2/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象	
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容
								旧	新				
39	リンドウ科	イヌセンブリ		○				II類	II類	準絶			●
40	ミツガシワ科	ガガブタ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
41		アサザ	○	○				準絶	準絶	II類			●
42	ガガイモ科	スズサイコ	○					準絶	準絶	準絶			
43	シソ科	ホソバヤマジソ	○					II類	II類	準絶			
44		ヤマジソ	○	○				準絶	準絶	II類			●
45		ミゾコウジュ	○	○				準絶	準絶				●
46		イヌゴマ	○	○						準絶			●
47	ゴマノハグサ科	オオアブノメ	○					II類	II類	準絶			
48		コキクモ	○	○				II類	II類	準絶			●
49		スズメハコベ		○				II類	II類	I類			●
50		オオヒキヨモギ	○					II類	II類				
51		イヌノフグリ	○					II類	II類	準絶			
52		カワヂシャ	○	○				準絶	準絶				●
53	ハマウツボ科	ハマウツボ	○	○				II類	II類	II類			●
54	タヌキモ科	ノタヌキモ	○	○				II類	II類	準絶			●
55		フサタヌキモ	○					IB類	IB類	絶滅			
56		ヒメタヌキモ		○				準絶	準絶	II類			●
57		イヌタヌキモ	○	○				準絶	準絶				●
58	キキョウ科	キキョウ	○	○				II類	II類				●
59	キク科	フジバカマ	○	○				準絶	準絶	準絶			●
60	オモダカ科	アギナシ		○				準絶	準絶	準絶			●
61	トチカガミ科	トチカガミ	○	○				準絶	準絶	II類			●
62		ミズオオバコ	○	○				II類	II類	II類			●
63	ヒルムシロ科	イトモ		○				準絶	準絶	I類			●
64	イバラモ科	サガミトリゲモ		○				II類	II類	I類			●
65		イバラモ		○						I類			●
66	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ		○				II類	II類	I類			●
67	ホシクサ科	オオホシクサ	○							準絶			
68		ホシクサ	○							準絶			
69		ツクシクロイヌノヒゲ	○	○				II類	II類	準絶			●
70	イネ科	ミズタカモジ		○				II類	II類	I類			●
71		ヒナザサ	○						準絶		追加		●
72		コゴメカゼクサ	○	○						準絶			●
73		ケカモノハシ	○							II類			
74		スズメノコビエ	○							II類			
75		アワガエリ	○	○						準絶			●

○ 準備書に掲載する重要な種について

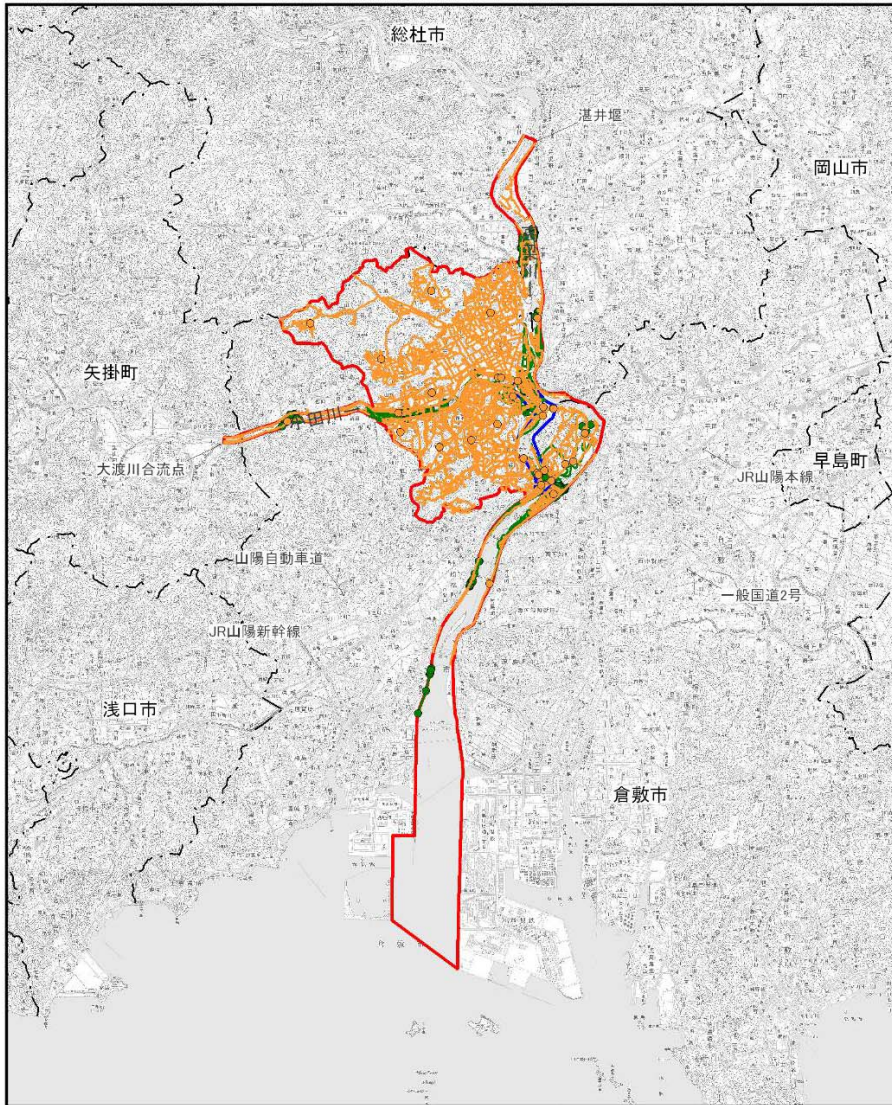
表10 種子・シダ植物の重要な種 (3/3)

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象					
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容				
								旧	新								
76	(イネ科)	モロコシガヤ	○								I類						
77	ミクリ科	オオミクリ		○							II類	II類	I類		●		
78		ヒメミクリ	○								II類	II類	II類				
79	ガマ科	コガマ		○									準絶		●		
80	カヤツリグサ科	ウマスゲ		○									準絶		●		
81		ヒメミコシガヤ		○								IB類	IA類	I類	変更(アップ)	●	
82		オオムギスゲ	○										留意				
83		ヤガミスゲ		○									準絶		●		
84		ホザキマスクサ		○									II類	II類	準絶	●	
85	ラン科	シラン	○										準絶	準絶	II類		
86		ギンラン	○												II類		
87		キンラン		○										II類	II類	II類	●
88		サギソウ	○											準絶	準絶	II類	
89		ミズトンボ	○											II類	II類	準絶	
90		ニラバラン		○											I類		●
合計	46科	90種	66種	57種	0	0	0	59種	60種	76種	0	5種	54種				

表11 蘚苔類の重要な種

No.	科名	種名	確認状況		選定理由							予測対象					
			文献調査	事業者の調査	a	b	c	d		e	f		環境省RL改訂内容				
								旧	新								
1	ミズゴケ科	オオミズゴケ		○									準絶	準絶	準絶		
2	ハイゴケ科	コウライイチイゴケ	○	○									準絶		準絶	変更(削除)	●
3	ウキゴケ科	ウキゴケ		○												一般種にダウン	
4		イチョウウキゴケ		○										準絶	準絶	準絶	●
合計	3科	4種	1種	4種	0	0	0	4種	2種	3種	0	2種	2種				

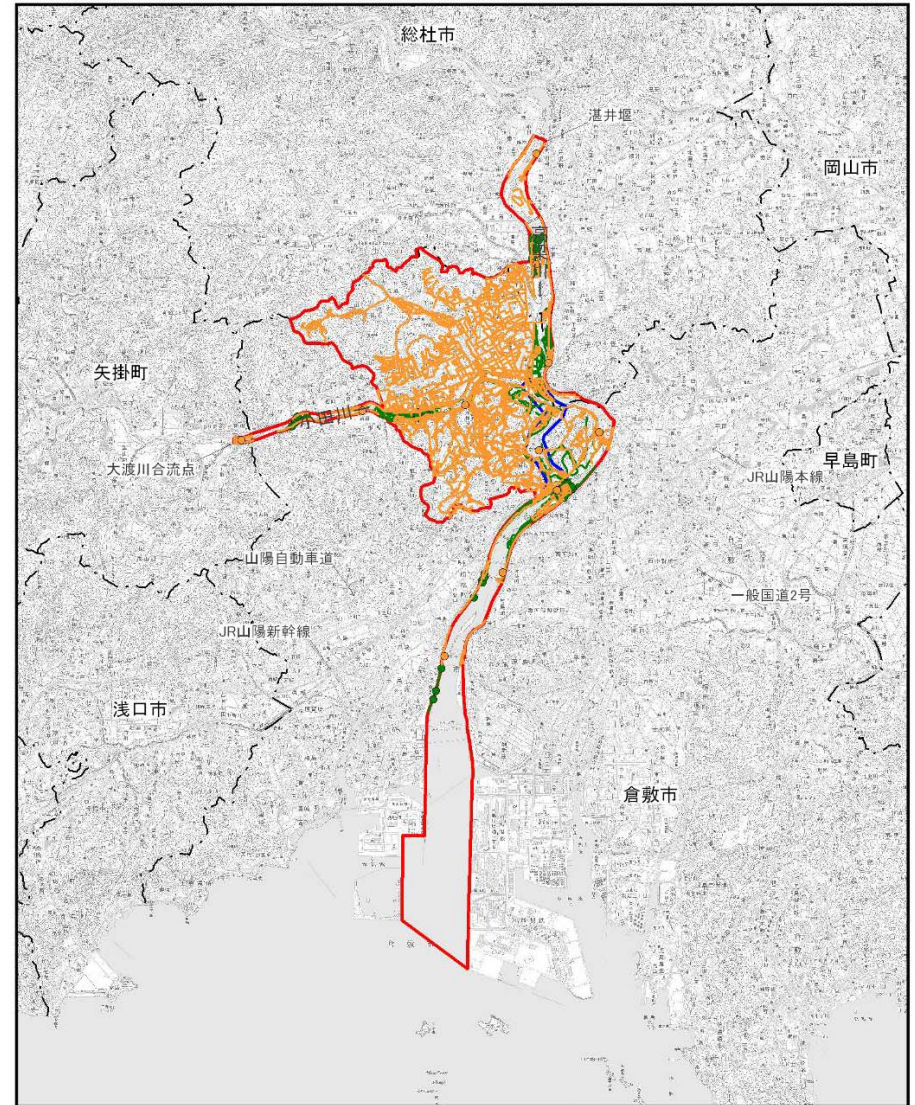
○事業者の調査ルート・地点図



- 凡 例
- : 対象事業実施区域
 - : 調査地域
 - : 市町村界
 - : 既往調査地点
 - : 既往調査経路
 - : 調査地点
 - : 調査経路

Scale 1:150,000
0 1.5 3 6km

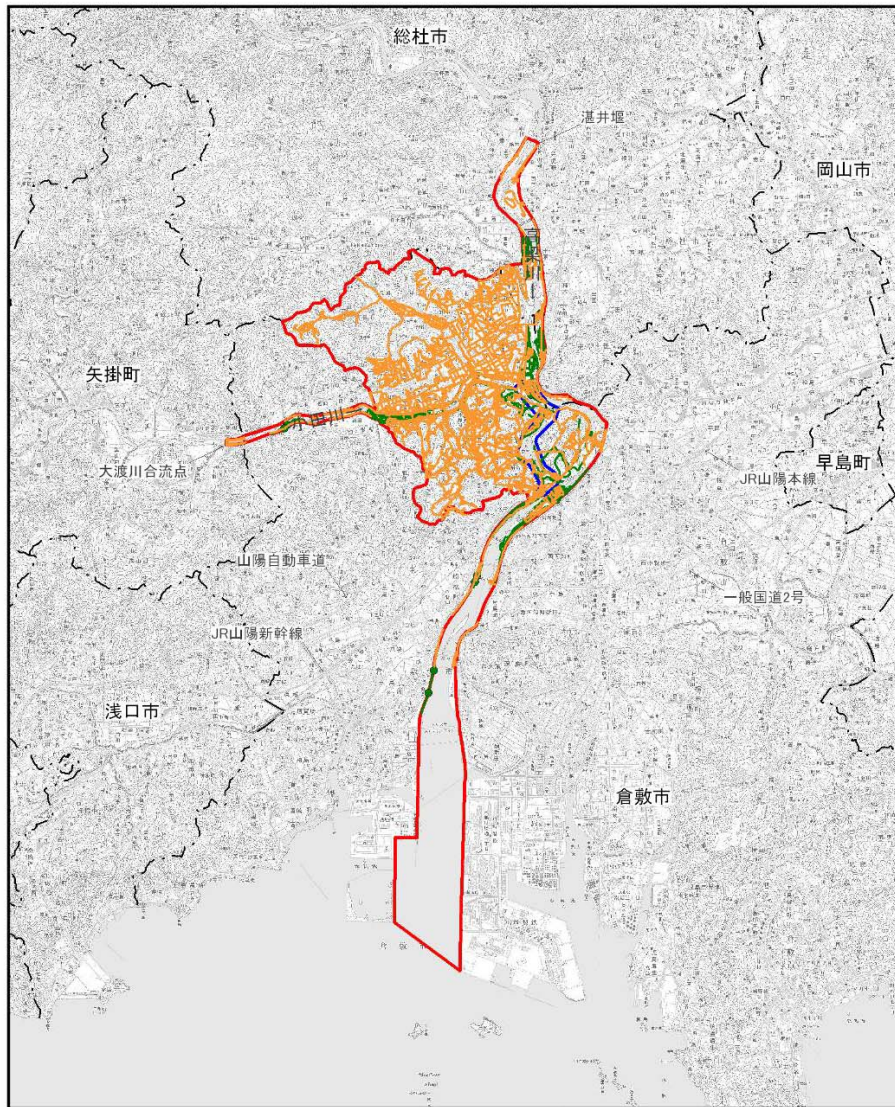
図2(1)
哺乳類調査地域、調査地点
及び調査経路



- 凡 例
- : 対象事業実施区域
 - : 調査地域
 - : 市町村界
 - : 既往調査地点
 - : 既往調査経路
 - : 調査地点
 - : 調査経路

Scale 1:150,000
0 1.5 3 6km

図2(3)
爬虫類調査地域、調査地点
及び調査経路

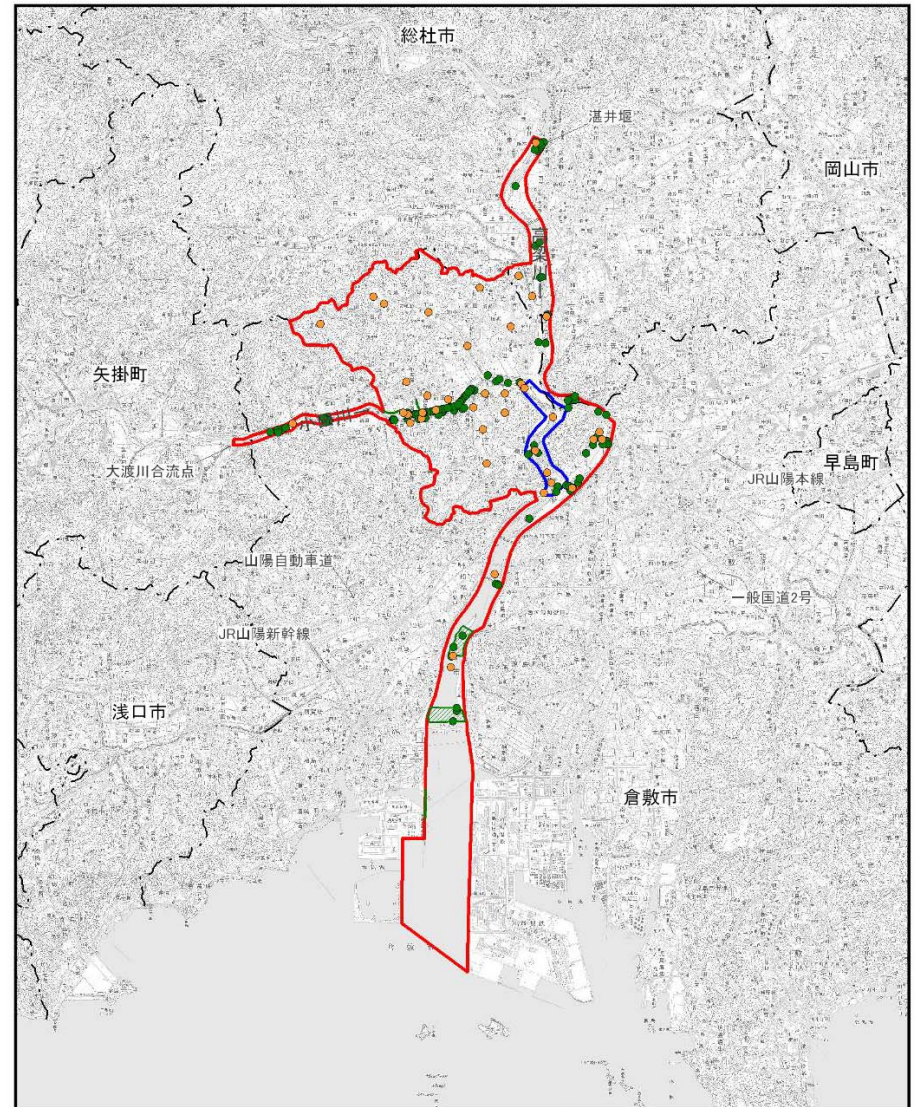


凡例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 調査経路

Scale 1:150,000
0 1.5 3 6km

図2(4)
両生類調査地域、調査地点
及び調査経路

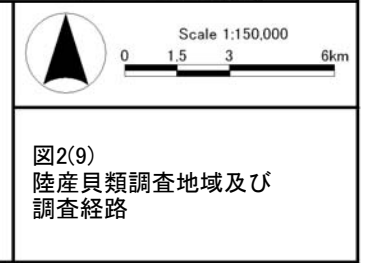
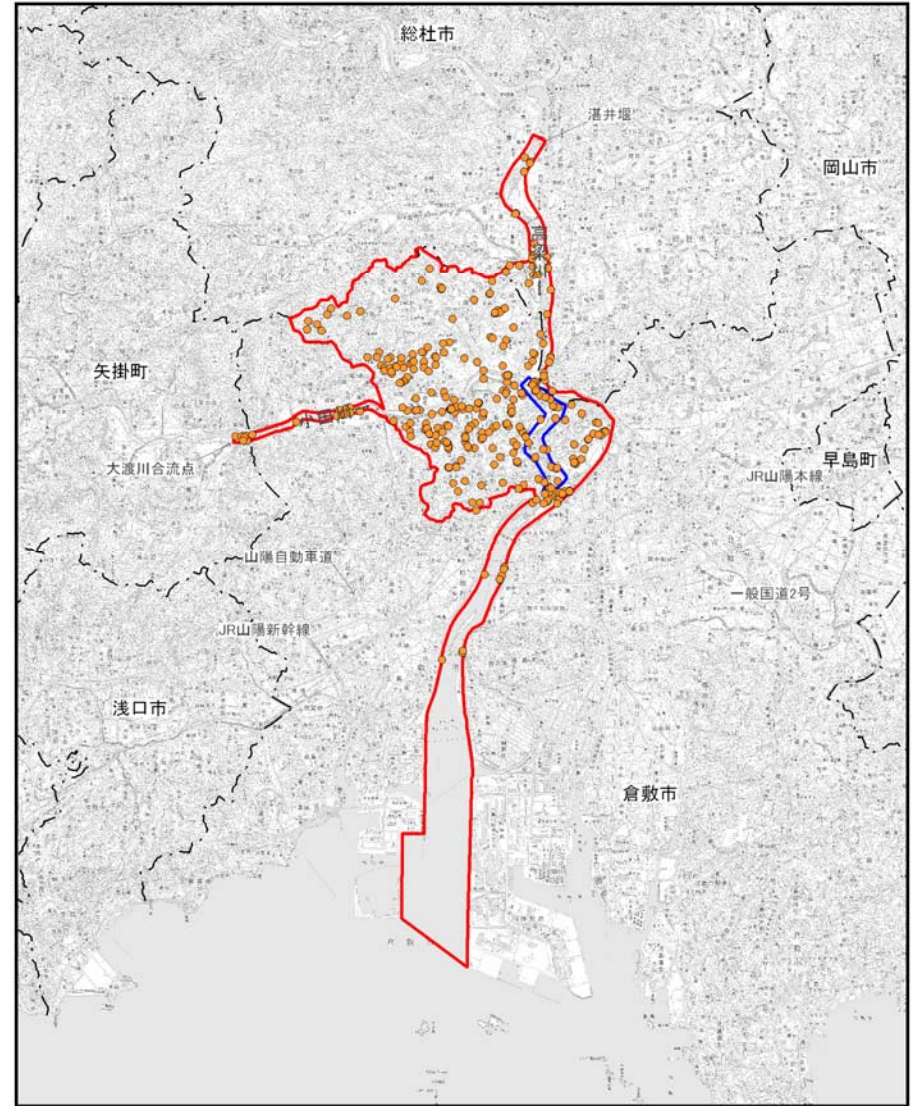
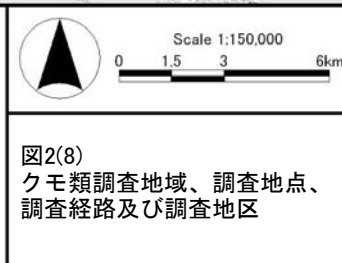
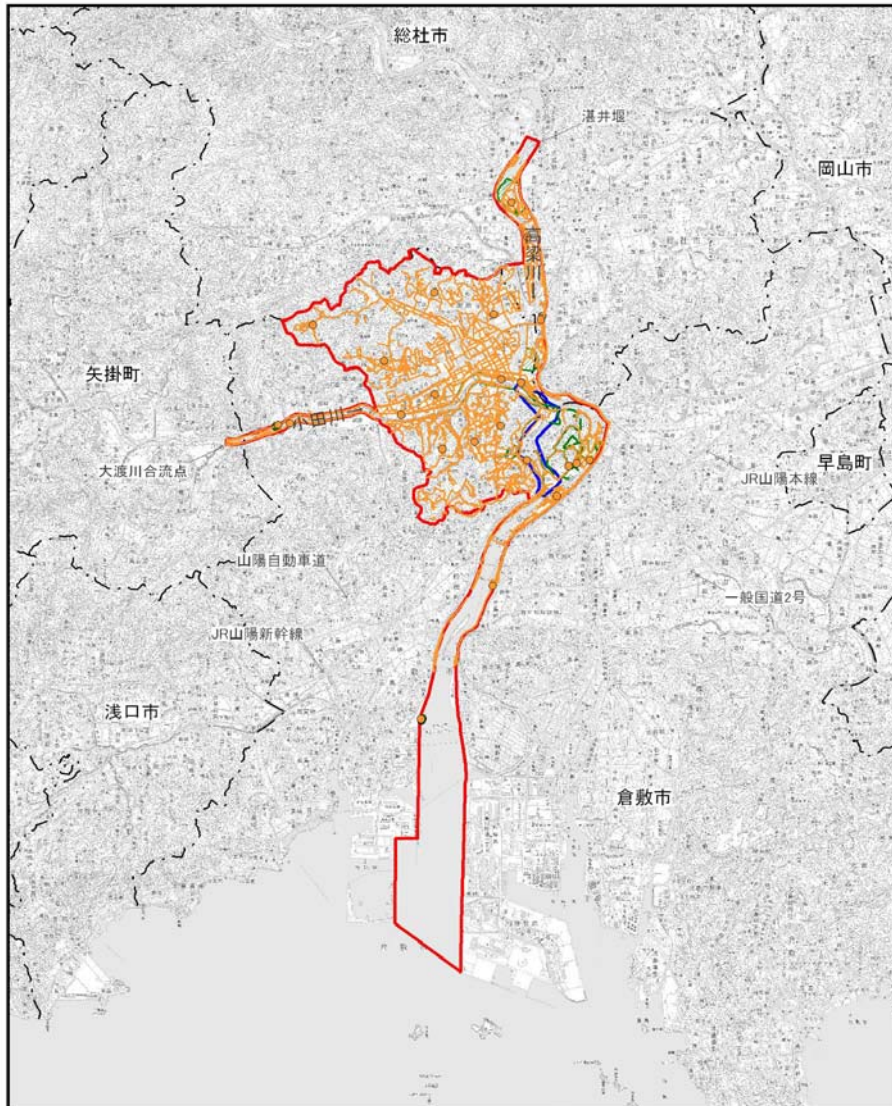


凡例

- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 市町村界
- : 既往調査地点
- : 既往調査経路
- : 既往調査地区
- : 調査地点

Scale 1:150,000
0 1.5 3 6km

図2(5)
魚類調査地域、調査地点、
調査経路及び調査地区



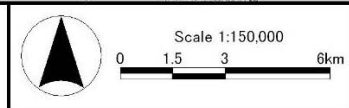
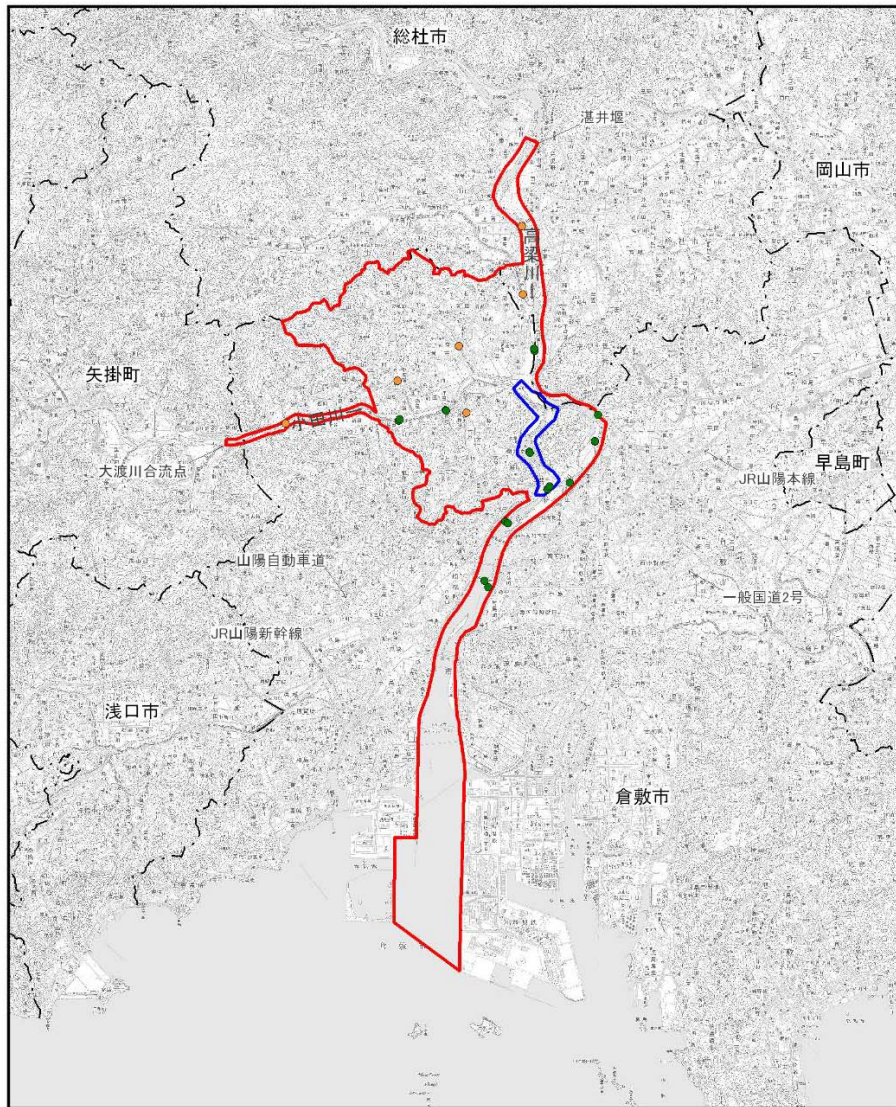


図2(11)
付着藻類調査地域及び
調査地点

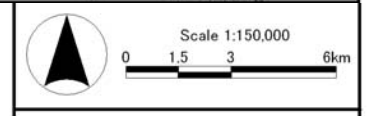
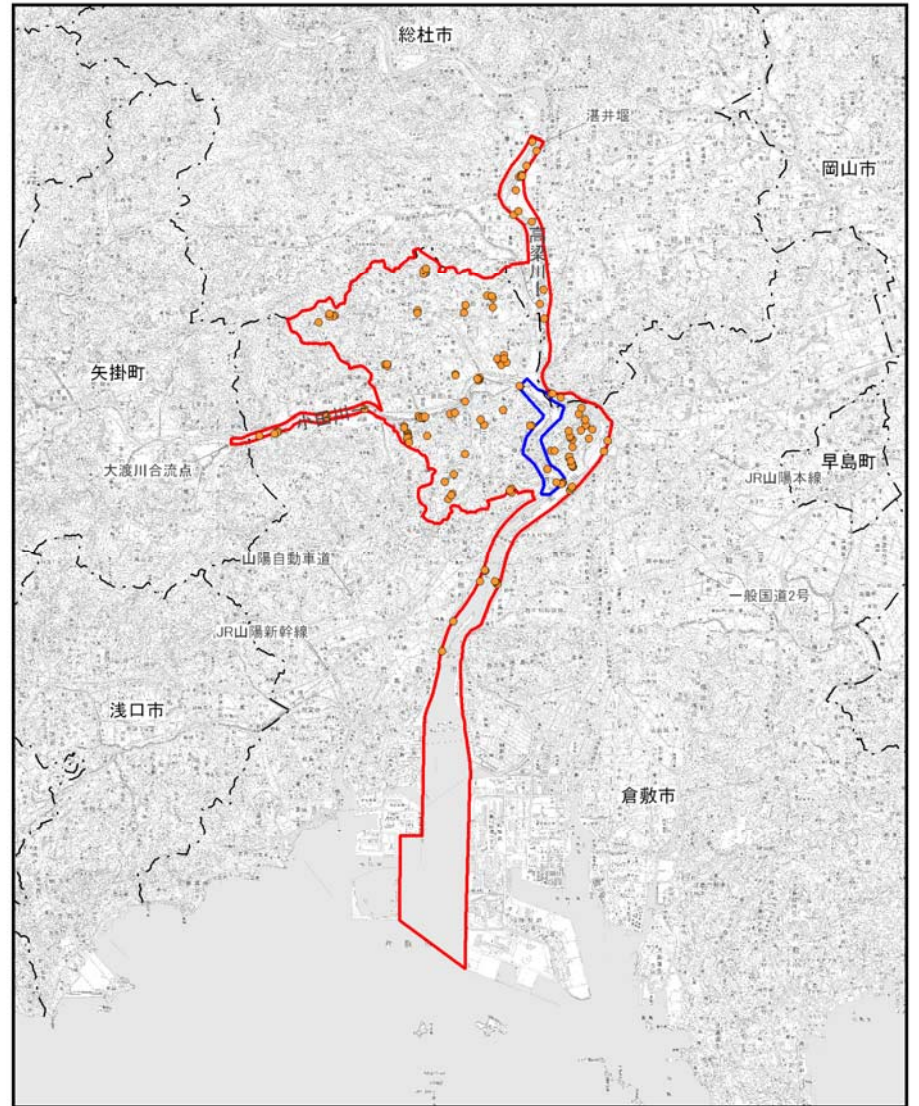


図2(12)
蘚苔類調査地域及び調査経路

○工事計画の概要

1. 事業計画の概要

○ 対象事業の目的

小田川付替事業は、高梁川の支川である小田川について高梁川との合流位置を下流に付替え、高梁川流域内で人口、資産が集中する倉敷市街地区間に位置する高梁川酒津地先、及び過去幾多の甚大な被害等が生じている小田川合流点付近の洪水時の水位低下を図ることを目的とする。

○ 対象事業の内容

(1) 対象事業の種類

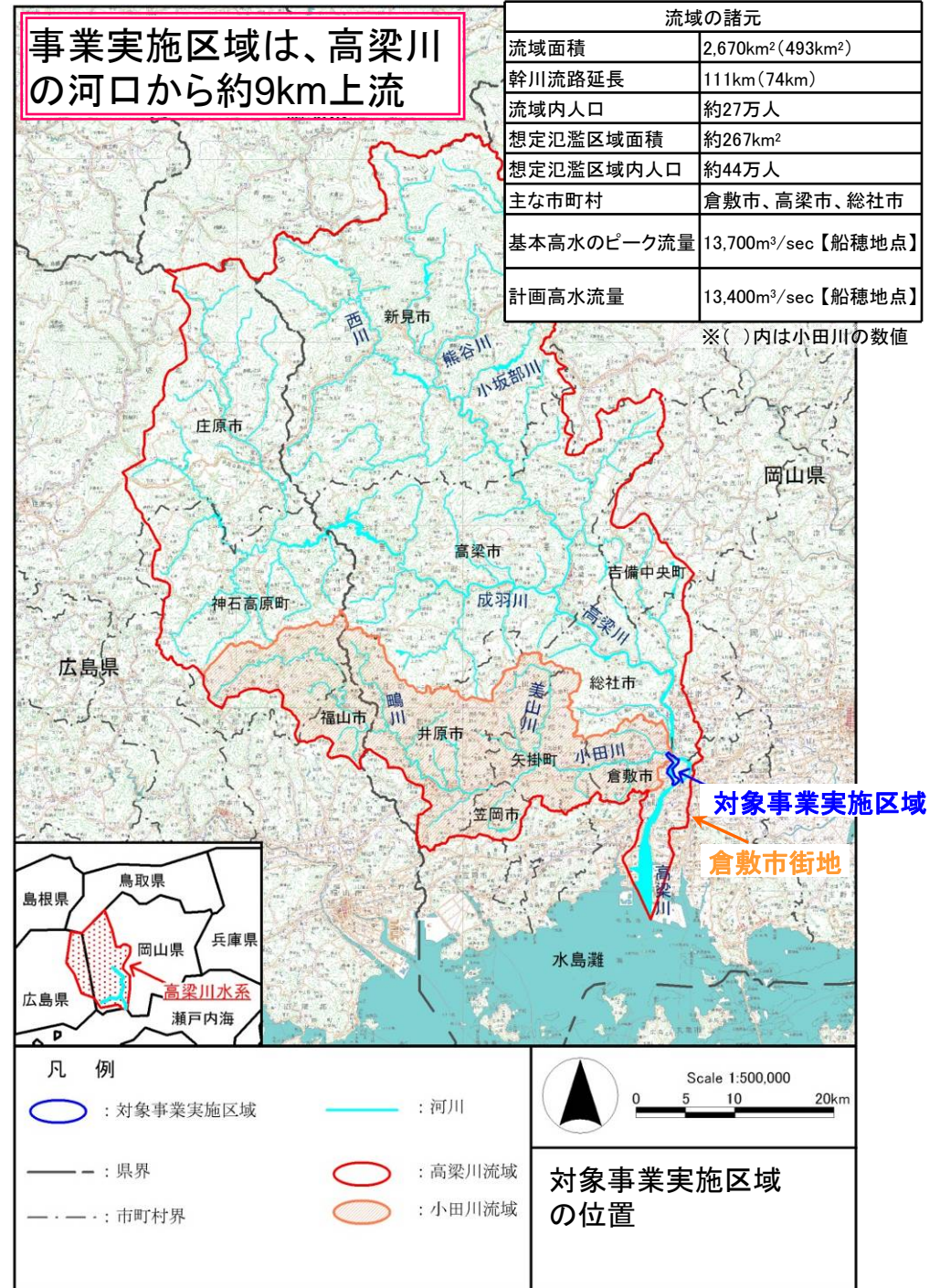
国土交通省中国地方整備局が行う
放水路の新設の事業

(2) 対象事業実施区域の位置

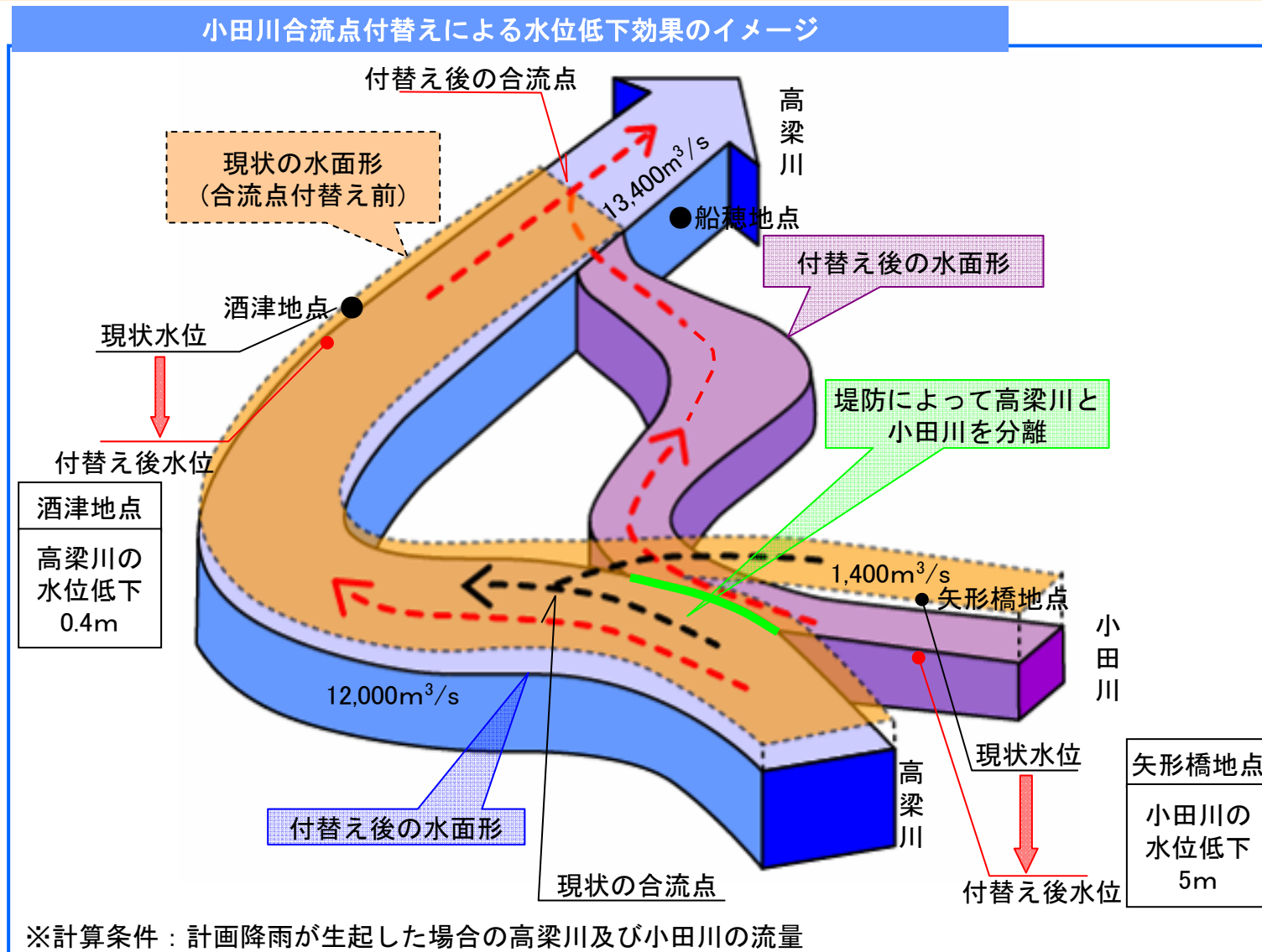
高梁川及び小田川の合流部で
岡山県倉敷市及び総社市に位置する。

(3) 対象事業の規模

土地の形状を変更する面積：**約107ha**



- ◆洪水時の高梁川の背水影響が軽減されることにより、小田川水位が低下する。
⇒ 矢形橋地点の水位低下効果: 5m
- ◆高梁川の現合流点と新合流点の間(付替え区間)で、小田川流量がバイパスすることにより、水位が低下する。
⇒ 酒津地点の水位低下効果: 0.4m

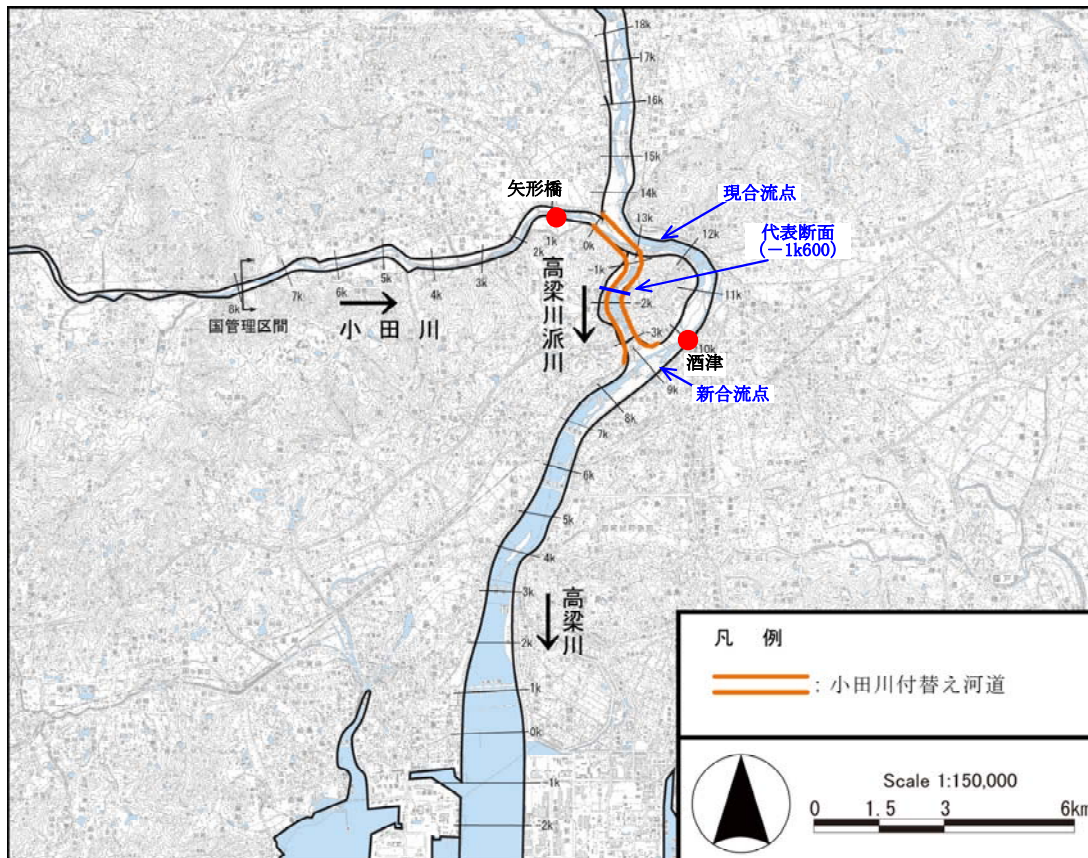


2. 付替え河道の諸元及び平面図・標準断面図

＜付替え河道の諸元＞

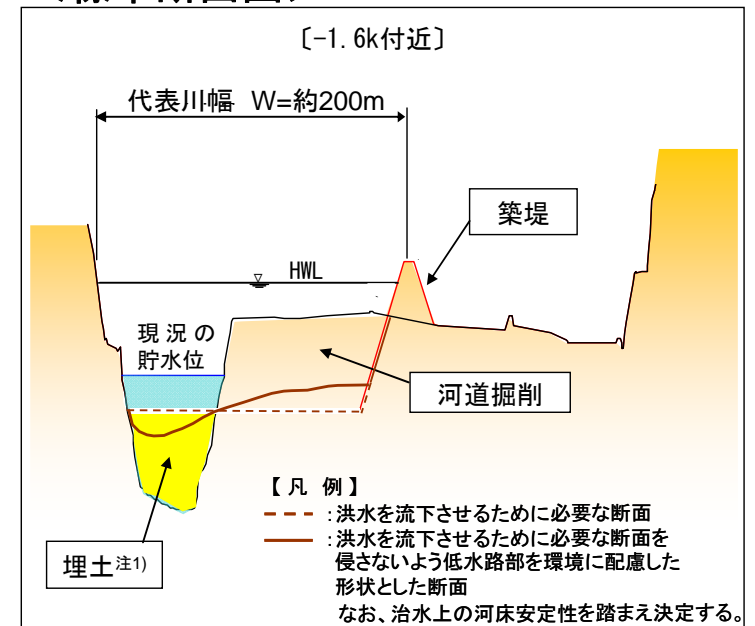
延長	L=3.4km
計画流量	2,300m ³ /s
代表川幅	W=約200m

＜小田川付替事業の平面図＞



(参考)

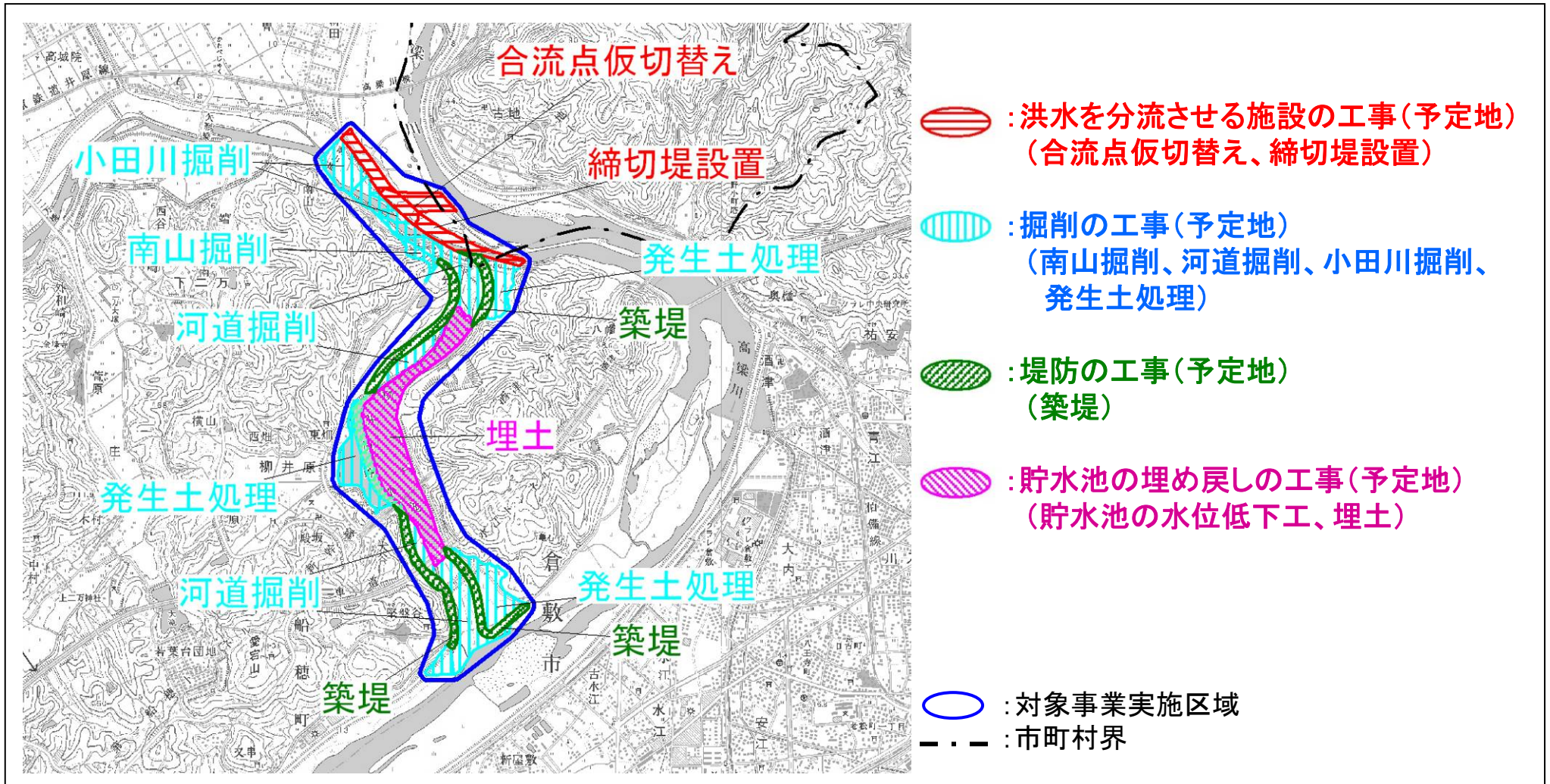
＜標準断面図＞



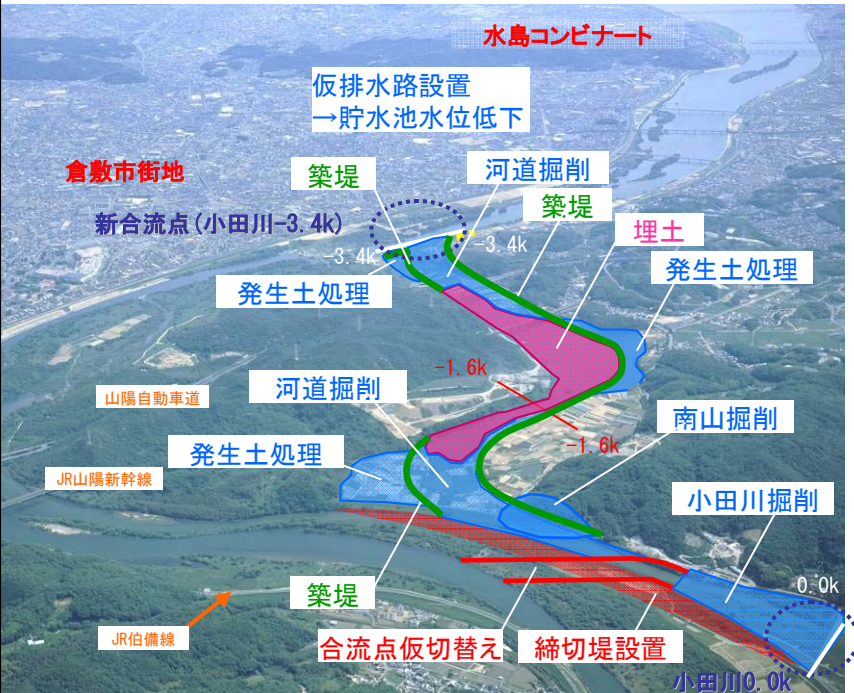
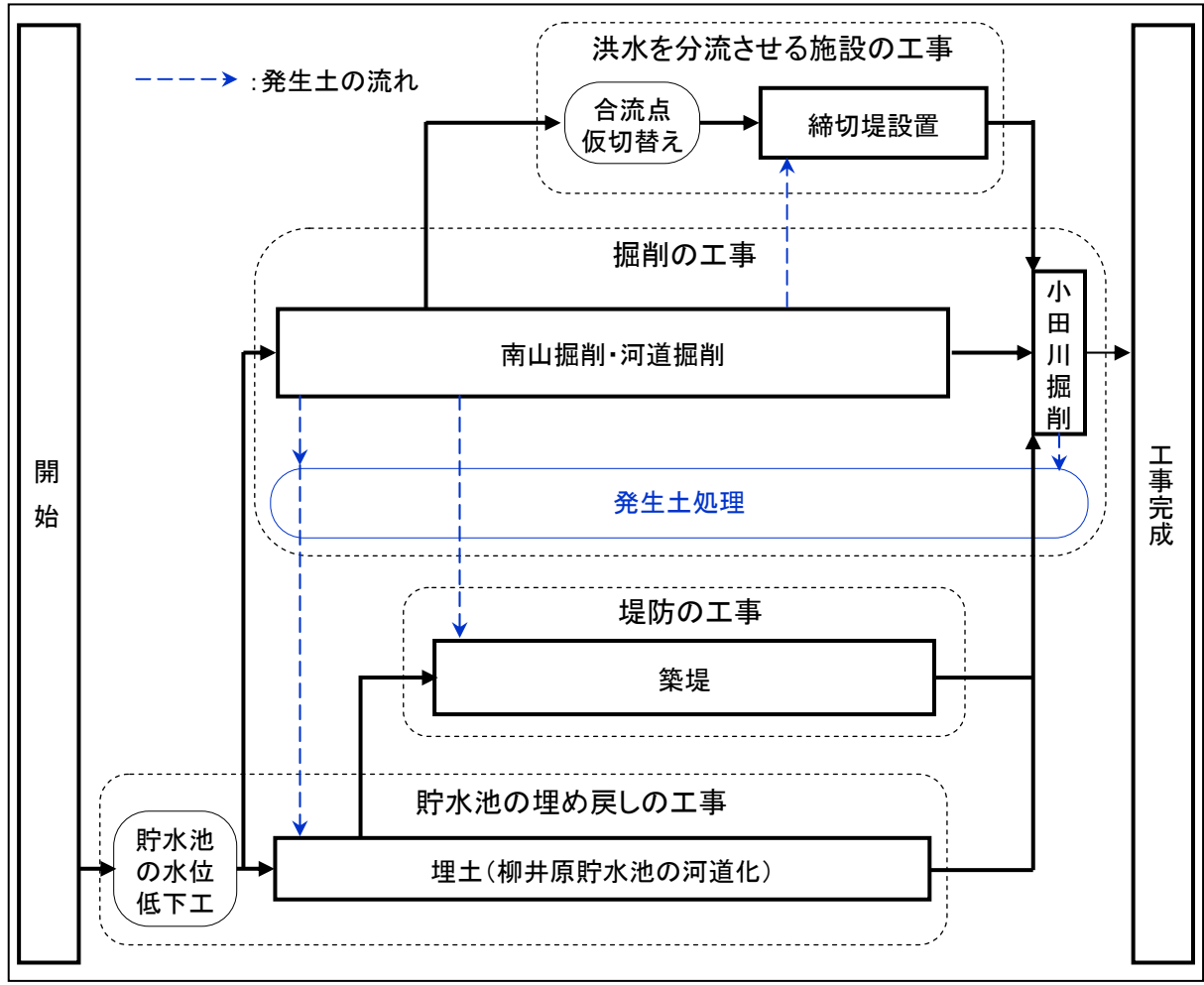
注1) 過去、柳井原貯水池では砂利採取が行われ、池底が深くなっている。



3. 工事計画概要図



4. 工事計画の流れ



小田川付替事業の工事のイメージ (高梁川の下流方向を望む)

○予測地域

